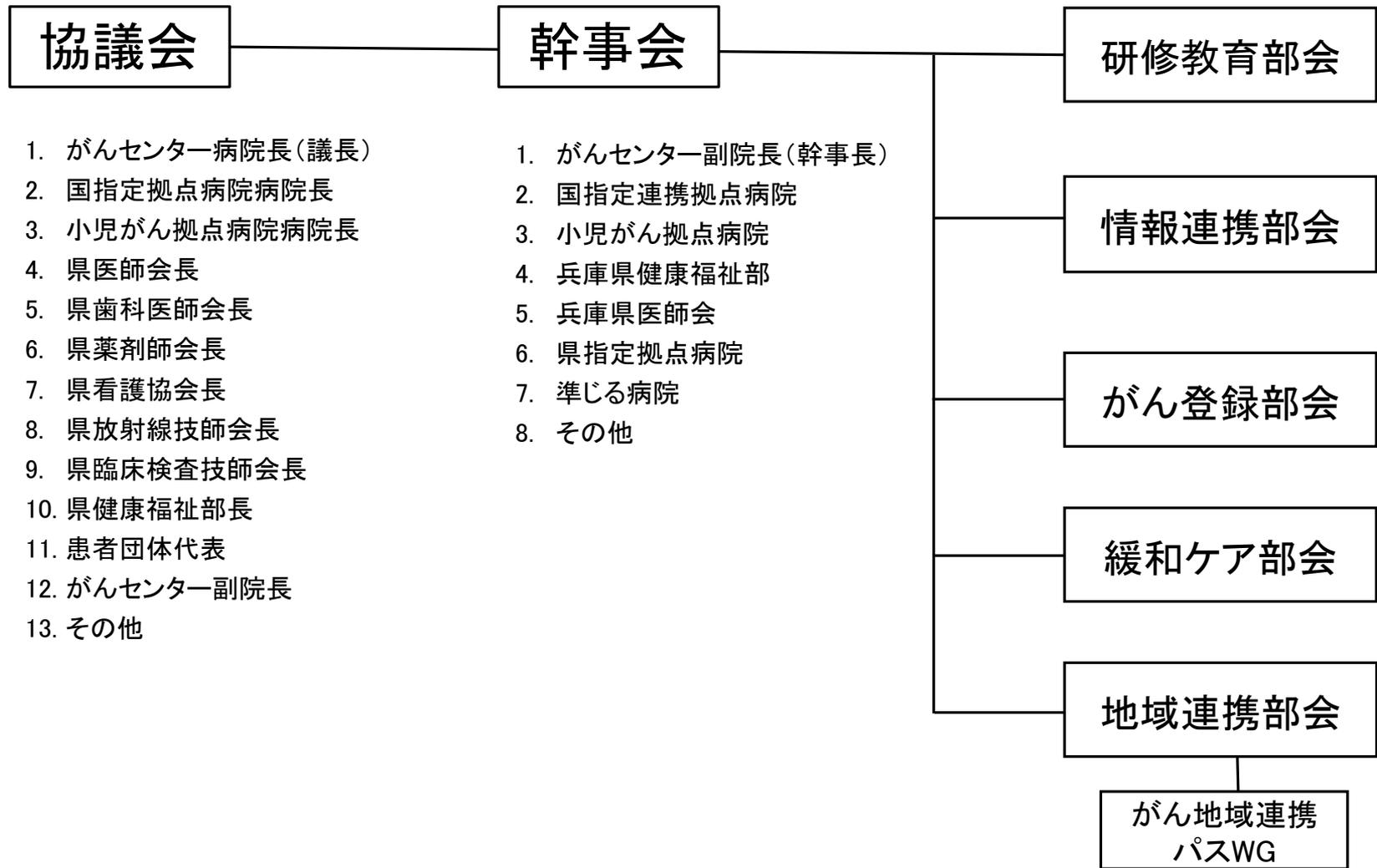


兵庫県がん診療連携協議会の組織体制



(3)協議会・幹事会並びに各部会の2018年度活動報告
及び2019年度活動計画について

兵庫県がん診療連携協議会・幹事会関連

項目	内容
2018年度の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2018年4月26日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第13回) 開催 ○ 2018年6月28日(木) 第1回幹事会 開催 ○ 2019年2月21日(木) 第2回幹事会開催 ○ 2018年11月17日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第8回「ひょうご県民がんフォーラム」開催 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「 がんと共に生きる 」 担 当 : 姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院
2019年度の活動計画 及び今後の検討課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2019年4月11日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第14回) 開催 ○ 2019年6月6日(木) 第1回幹事会 開催 ○ 2020年2月20日(木) 第2回幹事会開催 ○ 2019年11月16日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第9回「ひょうご県民がんフォーラム」開催 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「新たな がん医療の扉を開ける～がんゲノム医療～(仮)」 担 当 : 県立がんセンター、市立西脇病院、県立淡路医療センター

兵庫県がん診療連携協議会「研修・教育」部会関連

項目	内容
2018年度の活動報告	<p>○ がん看護実務研修の開催(県立がんセンター) 2018年6月1日～9月7日のうち32日間 2019年2月22日(金) 参加実人数 133名</p> <p>○ がん診療連携拠点病院を対象とする 「第4回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会」の開催 2018年10月6日(土) 兵庫県立がんセンター 2F 大会議室 テーマ:「遺伝性腫瘍-PARP阻害薬とBRCA遺伝子検査の承認に際して取り組みの共有-」 55名参加</p> <p>○ セミナーの開催 ・放射線セミナー 2018年10月13日(土) テーマ:「子宮がん(頸癌、体癌)」 県民会館11階パルテホール 116名参加 ・研修・教育部会セミナー 2018年10月27日(土) テーマ:「食道がんセミナー ～食道がん治療におけるチーム医療のかかわり～」 兵庫県民会館「けんみんホール」 99名参加 ・検査セミナー 2018年12月 8日(土) テーマ:「婦人科領域のがん 検査と治療 up to date」 兵庫県私学会館 114名参加 ・薬剤師セミナー 2018年12月15日(土) テーマ:「がんゲノム医療」及び「薬剤師力を発揮するための人材育成」 兵庫県私学会館 181名参加</p> <p>○ 共催研究会・県民フォーラムなど ・ 第8回ひょうご県民がんフォーラム 2018年11月17日(土) テーマ:「がんと共に生きる」 兵庫県民会館「けんみんホール」 担当施設:◎姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院 (地域別で持ち回りにて開催する) 118名参加</p>
2019年度の活動計画 及び今後の検討課題等	<p>○ がん看護実務研修の開催(県立がんセンター) 2019年6月日～8月30日のうち28日間、及びフォローアップ研修 2020年2月21日</p> <p>○ がん診療連携拠点病院を対象とする 「第5回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会」の開催 2019年10月22日(火) 祝日 兵庫県立がんセンター 2F 大会議室 テーマ:「AYAがん患者の考え方(仮)」</p> <p>○ セミナーの開催 ・放射線セミナー 2019年10月12日(土) テーマ:「食道がんの診断と治療 -Update-」 県民会館11階パルテホール ・研修・教育部会セミナー 2019年10月26日(土) テーマ:「がんゲノム医療の実際」 県民会館11階パルテホール ・検査セミナー 2019年12月21日(土) テーマ:「未定」 兵庫県私学会館 ・薬剤師セミナー 2020年 1月 18日(土) テーマ:「未定」 兵庫県私学会館</p> <p>○ 共催研究会・県民フォーラムなど ・第9回ひょうご県民がんフォーラム 2019年11月16日(土) テーマ:「新たな がん医療の扉を開ける～がんゲノム医療～(仮)」 兵庫県民会館「けんみんホール」 担当施設:◎県立がんセンター、市立西脇病院、県立淡路医療センター (地域別で持ち回りにて開催する)</p>

《平成30年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

平成31年 3月 末 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
研 修 教 育 部 会	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	がん看護の知識を幅広く学び、実践されているが、実臨床の内容に関しての向上にはつながっていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識を自部署での看護に活かせるように研修内容を検討し、研修目標を明確にする。標準的に必要ながん治療や看護について学ぶ知識編、免疫チェックポイント阻害剤・遺伝性腫瘍等最新の情報を知る知識編、基本を修得し実践できるように演習するスキルアップ実践編の3つにわける。 ・研修参加の対象者をがん看護の実践力向上を図りたい方と明確にし研修企画をする。 <p>★実施日時：平成30年6月1日～9月7日 フォローアップ研修として平成31年2月22日</p>	H31年3月	○	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県内がん医療に携わっている施設213施設に送付しがん看護実務研修受講者は9名の参加があった。23の病院より延べ335名、12の訪問看護ステーションより延べ91名と多くの施設の参加があった。 ・フォローアップ研修時のアンケート結果で、受講生の所属長よりスキルアップ実践編を受講することで実践に活かしている人は75%、がん看護の充実に向けた取り組みができた人は62%と昨年度より増加している。学んだことが実践に活かしている。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する知識が実践に繋がるような研修企画を継続する。 ・長期間研修を受講しても、がん看護実務研修修了書のみだったので、ELNEC修了がとれるように研修内容を調整する。
		研修教育部会で10年間にわたってセミナーやフォーラムを開催し、一定の成果が得られたが、拠点病院間、各圏域での周知不足や意識の差が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ セミナーの開催 <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線セミナー 平成30年10月13日(土) 県民会館「パルテホール」 2) 研修・教育部会セミナー 平成30年10月27日(土) 県民会館「けんみんホール」 テーマ：「食道がんセミナー」～食道がん治療におけるチーム医療のかかわり～ 3) 検査セミナー 平成30年12月8日(土) 兵庫県私学会館 4) 薬剤師セミナー 平成30年12月15日(土) 兵庫県私学会館 	H31年3月	○	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> 医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師など、チーム医療に関わる医療従事者を対象にセミナーを行い、医療レベルの向上を図った。 放射線セミナー 120名参加 研修・教育部会セミナー 85名参加 検査セミナー 114名参加 薬剤師セミナー 181名参加 	継続	国指定、県指定及び準じる病院の拠点病院、その他医療機関に対して、引き続き積極的な参加を呼びかける。
		○ 県民フォーラムなどの開催 第8回ひょうご県民がんフォーラム 日 時：平成30年11月17日(土) テーマ：「がんと共に生きる」 担当施設：姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協議会との共催に同意が得られた研究会、懇話会の開催及び後援名義の使用承認 (http://www.hyogo-ganshinryo.jp/index.htmlに掲載) 	H31年3月	○	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> 県民へのがん治療への理解を深めるため、H30年度は「がんと共に生きる」をテーマにがんの治療をしながら仕事・家庭生活を続けていく方法があることについて情報提供を行った。 第8回ひょうご県民がんフォーラム 参加人数 118名 地域ごとに行われた研究会などの共催、及び後援を行った。 共催：17件、後援：12件 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続いて第9回ひょうご県民がんフォーラムを開催し、県民へのがんに対する知識の啓発を目的とした啓蒙活動を続けていく。 各研究会などとの連携を考慮し、引き続き共催、後援を行う。

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《2019年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

2019年4月1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
研 修 教 育 部 会	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	がん医療・看護の質向上をはかり、がんに関する知識が実践に繋がるような研修が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識を自部署、自施設での看護に活かせるように研修内容を検討し、ELNECを取り入れる。 ・研修参加の対象者をがん看護の実践力向上をはかりたい方と明確にし、がんに関する知識の向上だけでなく実践に繋がるようにする。 <p>★ 実施時期:2019年6月3日～8月30日 フォローアップ研修として2020年2月21日</p>	2020年3月					
		医療関係者の育成については、セミナーの開催などにより継続的に行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会の開催 第5回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会 開催日未定 県立がんセンター テーマ:「AYAがん患者の考え方(仮)」 ○ セミナーの開催 1) 放射線セミナー 2019年10月12日(土) 県民会館「パルテホール」 テーマ:「食道がんの診断と治療-update-」 2) 研修・教育部会セミナー 2019年10月26日(土) 県民会館「けんみんホール」 3) 検査セミナー 2019年12月21日(土) 兵庫県私学会館 4) 薬剤師セミナー 2020年1月18日(土) 兵庫県私学会館 	2020年3月					
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民フォーラムなどの開催 第9回ひょうご県民がんフォーラム 日 時:2019年11月16日(土) テーマ:「未定」 担当施設: 県立がんセンター、市立西脇病院、県立淡路医療センター ○ 協議会との共催に同意が得られた研究会、懇話会の開催及び後援名義の使用承認 (http://www.hyogo-ganshinryo.jp/index.htmlに掲載) 	2020年3月					

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

兵庫県がん診療連携協議会「情報・連携」部会関連

項目	内容
<p>2018年度 の活動報告</p>	<p>1 活動計画</p> <p>・がん相談実務者ミーティングの開催:4回/年</p> <p>平成30年度第1回会議 2018年6月7日(木) 13:30~15:45 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】 就労関連合同会議:産業保健総合支援センター、ハローワーク、兵庫県社労士協会</p> <p>平成30年度第2回会議 2018年10月6日(土) 13:00~15:45 場所:神戸大学医学部附属病院 第一病棟 2階 共通カンファレンスルーム 【内容】認定がん専門相談員申請に係る認定単位研修</p> <p>平成30年度第3回会議 2018年12月15日(土) 14:00~16:00 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】患者会との交流会</p> <p>平成30年度第4回会議 2019年3月23日(土) 予定 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】活動評価</p> <p>2)事務局会議の開催</p> <p>第20回会議 平成30年5月30日(水)13:00~14:30 場所:神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 第三会議室 【内容】今年度の計画確認</p> <p>第21回会議 平成30年10月6日(土)15:00~15:45 場所:神戸大学医学部附属病院 第一病棟 2階 共通カンファレンスルーム 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域相談支援フォーラムの運営について 2. 来年度の部会会議内での研修会の位置づけについて 3. がんピアサポーター養成研修およびフォローアップ研修の開催について <p>第22回会議 2018年12月15日(土) 16:30~18:20 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域がん相談支援フォーラムの運営について 2. がんピアサポーター養成研修の開催について 3. 情報・連携部会運営のためのマニュアル作成について <p>第23回会議 2019年3月8日(金) 13:00~14:00 場所:神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 第三会議室 【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度の事業評価と2019年度の事業計画について ・地域相談支援フォーラムの運営について <p>3)地域がん相談支援フォーラムin近畿開催に向けての準備</p> <p>第1回準備会議 2019年1月24日(木) 18:30~19:30 場所:神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開催日時と場所の検討 2. プログラム構成の検討
<p>2019年度 の活動計画 及び今後の 検討課題等</p>	<p>1 活動計画</p> <p>1)がん相談実務者ミーティングを年4回開催する</p> <p>【日程(予定)】 第1回:6月12日(水)、第2回:9月21日(土)、第3回:12月21日(土)、第4回:3月21日(土)</p> <p>【内容(予定)】 ①就労関連合同会議 ②認定がん専門相談員単位認定研修 ③ピアサポーター養成研修修了者との交流会 ④活動評価</p> <p>2)事務局会議の開催</p> <p>【日程】 未定 【内容】 未定</p> <p>3)地域がん相談支援フォーラムin近畿の開催および開催準備</p> <p>2019年10月6日(日)開催予定 場所:神戸市立医療センター中央市民病院 第2回準備会議 2019年9月 予定 場所:神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ</p>

《平成30年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

平成31年3月 末日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実 施 内 容	区分	今後の改善内容(計画)
情 報 連 携 部 会	がん相談支援の質の向上、活用の促進に努める	各病院における相談支援部門の活動の自己評価、目標管理が定期的に実施されていない。	1)各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う ①2018年6月までに、各病院の相談支援部門の活動を国立がん研究センターが作成したチェックリスト用いてチェックし、問題点を明らかにする ②上記は毎年3月に行うこととする 2)各病院の相談支援部門の活動についてその質の向上をはかるために質の改善の努力を行う ①目標管理の書式に則り、2018年6月までに医療サービスの質にかかる目標と目標を達成するための達成可能な計画を立てる ②年4回開催する実務者ミーティングの際に、毎回15分の目標の進捗管理の時間をとる 3)各病院の相談員の能力の維持向上を図る ①実務者ミーティングを年4回開催し、研修会、事例検討、経験交流、患者会との交流などを行う	H31年3月	○	達成	1)2) ①2018年3月の情報・連携部会会議で、各施設でチェックリストの記入を行い、各病院の質の改善計画を目標管理の様式に基づいて立案した。 3) ①情報・連携部会会議を計画通り、年4回実施した。内容も計画通りで、第1回に事例検討、第2回は研修会、第3回はピアサポーターとの交流会、第4回は活動評価を実施した。	継続	1)各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う ①2019年6月までに、各病院の相談支援部門の活動を国立がん研究センターが作成したチェックリストを用いてチェックし、問題点を明らかにする ②上記は毎年3月に定期的に行うこととする 2)各病院の相談支援部門の活動についてその質の向上を図るために質の改善の努力を行う ①目標管理の書式に則り、2019年6月までに医療サービスの質にかかる目標と、目標を達成するための実現可能な達成計画を立てる ②年4回開催する情報・連携部会会議の際に、毎回15分の目標の進捗管理の時間をとる 3)各病院の相談員の能力の維持向上を図る
	がん患者の就労支援を行う体制づくりをする	昨年度、産業保健センター、ハローワークとの協力が効果的に行えていない。	1)兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センター、ハローワークと拠点病院の連携事業について各拠点病院にインフォメーションを行う 2)がん患者が就労継続ができるよう、産業保健総合支援センター、ハローワーク、産業医との協働をはかる ①平成30年度第1回実務者ミーティングで、兵庫県社会保険労務会、産業保健総合支援センター、ハローワークとの合同ミーティングを行う	H31年3月	△	概ね達成	1)第1回会議で、兵庫県社会保険労務士会と神戸市立医療センター中央市民病院との連携、産業保健総合支援センターやハローワークと兵庫県立がんセンターとの連携について、活動紹介を行い、各地域ごとに交流を行った。 2)①第1回会議で意見交換会を開催した。 3)(中間評価時の新規計画)初診時の離職を防ぐための患者への啓発資料の作成を検討する。 兵庫県医師会に、患者への啓発資料を作成・配布していないか確認を行った。	継続	1)兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センター、ハローワークと拠点病院の連携事業について各拠点病院にインフォメーションを行う 2)がん患者が就労を継続できるよう、産業保健総合支援センター、ハローワーク、産業医との協働を図る 3)離職を防ぐための患者への啓発資料を作成する。
	がん患者のピアサポーターの体制づくり・継続を支援する	がん患者のピアサポートに取り組む人材が質・量ともに充足していない	1)がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する ①兵庫県主催のピアサポーター養成講座を開催する ②ピアサポーター養成講座受講修了者の継続教育を目的として、フォローアップ研修会を実施する 3)国の標準プログラムに基づく研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内に3か所設ける	H31年3月	○	達成	1) ①9月29日(土)・9月30日(日)の2日間で実施予定であったが、天候不良のため中止となった。 ②12月15日(土)午前中、質の向上を目的として、フォローアップ研修会を開催した(内容:活動の場の構築に関するレクチャー、ロールプレイ)。 ③ピアサポーター養成研修を修了したピアサポーターが院内サロンに参加している病院は3施設(国拠点5施設、県拠点2施設、準拠点1施設)、ピアサポーターと契約を提携している施設は3施設(国拠点1施設、県拠点1施設、準拠点1施設)であった。(2019年3月15日時点)。	継続	1)がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する ①兵庫県主催のピアサポーター養成講座を開催する ②ピアサポーター養成講座受講修了者の継続教育を目的として、フォローアップ研修会を実施する ③国の標準プログラムに基づく研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内で3か所設ける ④研修を修了したピアサポーターが充実した活動を行えるよう支援する。
	情報・連携部会の組織を強化し、迅速に意思決定し、事業を行える体制を整える	情報連携部会員が実際のがん相談支援センターを運営統括していない。部会が開催されない。実務者ミーティングが部会に準じた役割を果たしている。	1)情報・連携部会と実務者ミーティングを合併する ①2018年6月までに情報・連携部会の部会委員として、がん相談に従事する実務者を選出してもらうよう各病院に依頼する ②平成30年度より、実務者ミーティングを廃止し、情報・連携部会実務者ミーティングに変更する ③実務者ミーティングの事務局は情報・連携部会事務局と名称を変更し、その機能は継続させる ④情報・連携部会の開催や事務については、兵庫県がん診療連携協議会事務局に担当を依頼する。	H31年3月	○	達成	1) ①4月の幹事会で部長より、部会員として実務者を推薦してもらうよう要請した。 ②平成30年度第1回のミーティングより、名称を情報・連携部会部会会議に変更して開催した。年4回に情報・連携部会会議を開催した。 ③平成30年度第1回の事務局会議より、名称を変更して会議を開催し、平成30年度の事業計画の確認を行った。 ④情報・連携部会長からも、兵庫県がん診療連携協議会事務局に業務の依頼を行う。	完了	
	県内のがん相談支援の質向上を推進する人材を育成する	兵庫県内の国指定の拠点病院で認定がん専門相談員が充足していない	1)国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する ①がん相談実務者ミーティングで、認定に必要な研修を年1回以上開催する ②各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うように部会から働きかけを行う ③国立がん研究センターがん対策情報センター主催のがん相談指導者研修に受講生を派遣する。	H31年3月	○	達成	1)今年度新たに認定者が3名となった。 ①10月6日に、単身者の支援をテーマに単位研修を開催した。 2)情報・連携部会会議の際に、働きかけを行った。 ③本年度は開催なし。	継続	1)国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する ①情報・連携部会会議で、認定に必要な研修を年1回以上開催する ②各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うように部会から働きかけを行う ③国立がん研究センターがん対策情報センター主催のがん相談指導者研修に受講生を派遣する
	平成31年地域相談支援フォーラムin近畿を開催する	当県でフォーラムの開催が実施できていない	1)国立がん研究センターがん対策情報センターの地域相談支援フォーラム共催団体に応募する ①来年度以降の地域相談支援フォーラムの枠組みについて、国立がん研究センターの地域相談支援フォーラム事務局に問い合わせる	H31年3月	○	達成	1) ①情報・連携部会長より、国立がん研究センターの地域相談支援フォーラム事務局に問い合わせを行った。2019年1月24日(木)に近畿5府県のがん相談支援関連部会との実行委員会を開催し、2019年度地域がん相談支援フォーラムin近畿開催について以下を検討した。 ・日時:2019年10月6日(日) ・場所:神戸市立医療センター中央市民病院講堂(予定) ・フォーラムテーマ:「高齢がん患者の支援を考える」 ・主催:兵庫県がん診療連携協議会情報・連携部会、共催:近畿5府県のがん相談支援関連部会 ・プログラム構成:パネルディスカッション、講演(国立がん研究センター東病院小川朝生先生)、グループワーク	継続	1)他府県の情報・連携部会と協働して、実行委員会を組織する。 ①準備状況の確認と当日の運営について検討する(2019年9月)。 2)兵庫県内の情報・連携部会で運営委員会を組織する。 ①情報・連携部会事務局会議で、2019年1月に行った実行委員会の内容を確認する。 ②グループワークの内容を検討する(2019年3月中)。 ③募集のフォーマットや手順を国立がん研究センターと相談する。 ④兵庫県内のがん相談実務者に準備状況を報告する。 ⑤兵庫県内の運営委員を募集する。 ⑥地域フォーラムの当日の運営を行う。

(注) 実施管理・区分欄の記入について
C評価における区分は、達成、概ね達成、未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《 2019年度 P D C A サイクル実施計画・管理表 》

平成31年4月 1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
情 報 連 携 部 会	がん相談支援の質の向上、活用の促進に努める	各病院における相談支援部門の活動の自己評価、目標管理が定期的実施されていない。	1)各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う ①2019年6月までに、各病院の相談支援部門の活動を国立がん研究センターが作成したチェックリストを用いてチェックし、問題点を明らかにする ②上記は毎年3月に定期的に行うこととする 2)各病院の相談支援部門の活動についてその質の向上を図るために質の改善の努力を行う ①目標管理の書式に則り、2019年6月までに医療サービスの質にかかる目標と、目標を達成するための実現可能な達成計画を立てる ②年4回開催する情報・連携部会会議の際に、毎回15分の目標の進捗管理の時間をとる ③各病院の相談員の能力の維持向上を図る	2020年3月					
	がん患者の就労支援を行う体制づくりをする	社会保険労務士、産業保健センター、ハローワークとの協働が効果的に行えていない。	1)兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センター、ハローワークと拠点病院の連携事業について各拠点病院にインフォメーションを行う 2)がん患者が就労を継続できるよう、産業保健総合支援センター、ハローワーク、産業医との協働を図る 3)離職を防ぐための患者への啓発資料を作成する。	2020年3月					
	がん患者のピアサポーターの体制づくり・継続を支援する	がん患者のピアサポートに取り組む人材が質・量ともに充足していない	1)がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する ①兵庫県主催のピアサポーター養成講座を開催する ②ピアサポーター養成講座受講修了者の継続教育を目的として、フォローアップ研修会を実施する ③国の標準プログラムに基づく研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内で3か所設ける ④研修を修了したピアサポーターが充実した活動を行えるよう支援する。	2020年3月					
	県内のがん相談支援の質向上を推進する人材を育成する	兵庫県内の国指定の拠点病院で認定がん専門相談員が充足していない	1)国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する ①情報・連携部会会議で、認定に必要な研修を年1回以上開催する ②各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うように部会から働きかけを行う ③国立がん研究センターがん対策情報センター主催のがん相談指導者研修に受講生を派遣する	2020年3月					
	平成31年地域相談支援フォーラムin近畿を開催する	当県でフォーラムの開催が実施できていない	1)他府県の情報・連携部会と協働して、実行委員会を組織する。 ①準備状況の確認と当日の運営について検討する(2019年9月)。 2)兵庫県内の情報・連携部会で運営委員会を組織する。 ①情報・連携部会事務局会議で、2019年1月に行った実行委員会の内容を確認する。 ②グループワークの内容を検討する(2019年3月中)。 ③募集のフォーマットや手順を国立がん研究センターと相談する。 ④兵庫県内のがん相談実務者に準備状況を報告する。 ⑤兵庫県内の運営委員を募集する。 ⑥地域フォーラムの当日の運営を行う。	2019年10月					

(注) 実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

第1回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議 議事録

日 時 平成30年6月7日(木) 13:30~16:05

場 所 兵庫県立がんセンター 2階 大会議室

当番病院 神戸市立医療センター中央市民病院

(1) 就労支援関連職種との交流会

【活動紹介】

○社会保険労務士 伊藤氏

普段は病院や会社の顧問として従業員が健康で安全に働けるためのアドバイスをしたり労働関係の法律相談を行っている。また現在は神戸市立医療センター中央市民病院と大阪の大学病院でがん患者の就労支援も行っている。

病院と社会保険労務士が連携する際に注意している点は、労働に関する法律や傷病手当金、障害年金などの社会保障制度の説明、仕事を休む際に会社にどのように伝えるか、他の患者さんはどのようにして両立しているのかを具体的にお話しできるように心がけている。

復職を検討する際にも会社とどのように交渉していくか、辞めざるを得ないときにどのようにすれば経済的に有利となるのかなどもお話ししている。再就職の面接時にがんの罹患について伝えるのかなどを一緒に考えている。

社会保険労務士から見た就労支援の課題としては、がん治療と仕事の両立支援の相談場所として相談支援センターがあることをもっと労働者に知ってもらう必要があると考えている。治療をしながら仕事をし、仕事をしながらがん治療をする。また一旦退職したとしても再就職できるというようになっていけばよいと考えています。

○兵庫県産業保健総合支援センター 両立支援促進員 岸野氏

両立支援促進員 県立がんセンターで週1回相談対応を行っている。また働き方改革でトライアングル支援と呼ばれる企業(労働者・産業医も含む)・医療機関(主治医や相談支援担当者など)・社会保険労務士や両立支援促進員などのコーディネーターの三者が協力して進んでいくことを行政は目指している。今のところ150社ほどの企業に意識を確認しながらまわっているが、積極的な事例もあればあまりでもないところもあった。

県立がんセンターでの相談件数については昨年2月からはじまったが4月から9月の半期で見るとあわせて20件であったが、4月から今年3月末までの一年間で見ると54件となった。がん相談支援センターが院内周知を強化したことにより8月から件数が増えていった。行政機関であり、社会保険労務士のようになんでも受けられるということではないが労働者安全機構や産保センターも意識が変わってきており、以前は労働者でないと相談を受けられなかったが、労働者以外でも来所されれば相談をお受けする。ただし個別調整支援については労働者でなければ調整しようがないので相談のみになる。

都道府県がん診療連携協議会（5/23）で厚生労働省の労働基準局労働衛生課の担当者がトリアングル支援について説明。インターネットで検索していただければ資料があるので興味があればご参照を。国としてはがん相談支援センターの実務者も両立支援コーディネーターとして位置付けている。診療報酬においても条件付きだが医療機関にとって有用なことも出てきている。

○ハローワーク明石 長期療養就職者支援担当 山本氏

①県立がんセンターでの出張相談（毎週火曜日 11時から14時）

看護師がまず仕事ができる体調かを確認し、就労可能と判断できれば就労相談を行う。だいたい一人1時間。

周知活動としてミニセミナー「ハロワルーム」（月2回 10日・25日）も行っている。定期日程に來れない場合には別の曜日でも出張相談を行っている。

産保センターとも連携しておりハローワーク明石に相談に來られた方でも産保センターでの対応が良い場合には予約を取ったりしている。すでに退職を決めている方のその後の就業相談など逆のパターンで産保センターからの相談もある。

②ハローワーク明石での相談支援

専用窓口がある。担当職員からの案内で希望されれば予約をとる。

即就職をしたい方は週1回ぐらい、ゆっくり探していきたいという方については月1、2回ペースで面談している。出張相談ではペーパーベースでしか対応できないので、具体的な相談はハローワークで対応する。

長期療養者就職支援 平成25年から開始。出張相談は月2回ペースで対応していた。当初は相談件数8件だったが、平成29年度は出張相談50回以上となり相談件数は約40件に増えた。ハローワーク明石での平成29年度相談件数は400件、30名以上（初年度と比べ10倍）の方が就職できた。平成30年度も県立がんセンターの相談支援センターの院内周知活動により相談件数は増えている状況。

兵庫県ではハローワーク明石のみこの事業を行っている。県内で姫路や阪神間の病院の相談員から相談を頂くこともあるが、患者は明石まで来所することも体調面で大変。またがん患者専門の求人があるわけではない。一般の求人から選定、提案して就職に導くといった対応をしている。ぜひ主要病院近くのハローワークも協力を頂きたい。

○兵庫県立がんセンター がん相談支援センター橋口氏

相談支援センター側としては三者で入るようにしている。病状や今後の経過を医療者が確認するほうがより正確な情報を得られると思う。

両立支援で入っていても就職相談を視野に入れて対応しないといけない場合やその逆もある。ハローワークや産保センターの間に入り、橋渡しの役割が病院にはあると思う。

課題として周知活動の継続が必要と思っている。現場に近い看護師などの医療者にどれだけ知ってもらえるかというところの難しさを感じている。今年も各部署を回って就労支援のアピールを考えている。

○神戸市立中央市民病院 がん相談支援センター橋本氏

社労士と看護師と患者の3者で「しごととくらしの相談会」を月1回行っている。

一度看護師が面談して、社労士につなぐ必要性があるのかを確認する。

平成29度は19件。うち病棟への訪問が1件。

就労の相談が11件（仕事を休む前の段階から復職に関する事、再就職に向けてなど）

障害年金の相談4件、経済面に関する事4件

県立がんセンターのようにハローワークと連携しているわけではないので、就職活動の相談では実際に仕事を紹介することはできない。再就職に向けての相談は例えば自分のアピール不足なのかといった悩みをお持ちの方もいるのでそういった内容の相談に対し伊藤社会保険労務士が企業の人事担当をしていたことから企業側がどういったところをみているのか、どういったアピールをしたらよいのかといった提案を行なっている。そういった内容を聞いていることで相談員としてのスキルアップにもつながっている。

【グループワーク】

D グループ

ハローワークにお願いするにあたりがん相談支援センター・医療者側としては就労前のサポートに主眼をおいて対応すること、相談者が就労するにあたって生活を整えていくという視点が必要。

夫の扶養に入っている非正規雇用の方が雇い止めになるといった相談があり非正規での雇用についてという話題があがったが具体的な検討まではできなかった。

姫路のハローワークではまだ明石のような対応はできていないが、今後予約制など対応をお願いしたい。姫路日赤・姫路医療センターで年間10件程度の相談がある。

傷病手当金について人生のどのタイミングで受給していくのかの検討。

がんであることを会社に告げるかどうかについて、就職してからの配慮を受けるためには相談支援センターとしては罹患を告げて就職するというスタンスでよいのではないかとの結論となった。

C グループ

主にハローワークや社労士などの専門家との連携について検討。

社労士には事例の相談から拡大していくパターンが多い。

神大・中央市民のように県の社労士会と契約しているのと個別の契約での違いは社労士会

との契約は自由な活動ができない（勉強会など）ことからどのような契約を結んでいくかを考えたほうが良いと思った。

ハローワークとの連携についてあいさつ回りを考えている病院もあるが、ハローワークによっては感心どころであるかによって対応も違うかもしれないが粘り強くお願いしていくしかないだろう。ハローワーク明石経由での相談についても可能かもしれないが、病院近くのハローワークと連携していくほうがメリットは多いので良いのではないか。

職業訓練の話やどういった面談で就職につないでいっているのかというお話を聞いた。

A グループ

社労士と連携している病院 2 ハローワークと連携している病院 1

加算がついたことで院内のコンセンサスがとれ今年から体制を取り組んでいく病院もある高齢者が多い地域だと就労支援があまりないのが現状だが院内の多職種でワーキングを立ち上げ体制づくりを行っていくところもあった。

どういう風に支援を行えばよいのか、加算がついたことでどうやって対象者の拾い上げをおこなうのか、社労士との連携についてオープンにしている病院もあれば院内だけでの対応としている病院もあり同じ医療圏でどうやって共有していけるだろうかと検討したが答えはでなかった。

トライアングル支援のなかで産業医がいない事業所についてはどのように関わっているかを聞きたい。

B グループ

社労士と協働している病院もあれば患者層が高齢者が多い場合や再雇用をどうしようかといった相談もあり各病院で抱えている悩みが違った。

産保センターから再就職支援のあとには両立支援が必要となるのでどう連携していくかということや紛争のような状況となった場合に企業側の同意がなければ介入ができないが、例えば総合労働相談コーナーで企業への助言やあっせんをしてもらえるなどの方法があるとの情報を得ることができた。

ハローワークとの連携については神戸では西神戸医療センターのみ。相談員が病状等についてまとめた情報を患者にお渡しし持参のうえで相談して頂くといった連携をしているが神戸の各病院でも近隣のハローワークとそういった連携ができればよいと思う。

【グループワークのまとめ】

（橋本氏）地域柄ということもあるしがんの患者は比較的高齢の方が多く一口に就労と言っても対象となる方がどれだけいるのかは病院によって違う。

社労士やハローワークとの連携についてどの病院もいろいろと悩みを抱えていた。

ハローワークからは実際に密な連携をとっていなくても相談にはのって下さるということ

であり、積極的に連絡をすればよいのだと感じた。がんに特定せず働いている人は両立支援が必要であり専門機関との連携をはかっていきたい。

【質疑応答】

○トライアングル支援の中で産業医の問題について、産業医の実態がない企業も実際にはあるが、そういった産業医との連携がとれない事業所との調整についてはどのようにしているのか

(岸野氏) 大変難しい問題。診療報酬の中でがんに限るのはよいが、産業医が選任されている事業所の労働者と限定されていることに驚いている。(資料 34) 実際の相談の実務では産業医がいるといった相談は 10 人に 1 人ぐらい。どうやって把握していくか、即答はできない。

労働者健康安全機構では産業医を選任することで助成を行う事業があるがどこまで有効かはわからない。医師不足であり、産業医をしてくれる医師がどこまでいるかということも課題。産業医の養成は産保センターなどでの仕事ではない。

(橋本氏) 産業医がいない 9 名についてはトライアングル型支援の形としては会社側と連絡を取り合っているのか？

(岸野氏) 人事担当者への働きかけの方法について指導を行っている。会社がある程度の規模であると聞き取りで判断すれば就業規則について尋ねるようにしているが、やはり産業医のいる事業所は少ない。行政側としても難しい取り組みである。

○産業医が今回の診療報酬の改定で就労支援についての加算ができたことを知らなかったというパターンがあったと聞いたが相手が知らないと成り立たないのでどうしたらよいのか？医療機関から働きかけないといけないのか？

(伊藤氏) 医療の世界では返書をおこなうのは通常のことだが、病診・病病連携とは違い産業医は会社側の立場で書類を受け取るため、連携の意識がないのかもしれない。ただ、コスト(診療報酬)について説明せずとも医師であるからには診療情報提供を受ければその返書を行うのは通常であると思われる。診療担当医は会社での勤務体制やどのような配慮を受けられるのかがわからず、産業医はどのような治療が行われているかがわからないということからお互いの間をつなぐために今回の施策がある。コストの面でお願ひするのではなく医師から医師への問い合わせということで返書の依頼をしてみてもどうか。ただ、書類が返ってこない場合には会社に伝えるのも一つ。産業医も会社に雇われている身なので会社から言われると対応するだろう。

○兵庫労働局 廣田氏) 今回のお話を聞いていてハローワークに対する敷居の高さを感じておられることがわかった。ハローワーク明石は事業化して密な連携を図っている。その他は各ハローワークに委ねており対応できる範囲で個別対応しているが、労働局としてど

ういった関わりができるのか検討したいと思う。ハローワークでは仕事の相談は原則どなたでも対応することになっている。そこに病院の方がどう関わるのか、ハローワークがそれにどう対応するかということで、個人的に相談に来て頂くことは問題ない。周りのサポートをどのようにしてハローワークと協調していくかを考えたい。国の事業もある程度のニーズがあればハローワークとしても対応していくことも考えている。要望があれば労働局に言ってください。

(2) その他連絡事項

【事務局からの連絡事項】 兵庫県立がんセンター 橋口氏

●5/30 情報連携部会 事務局会議

部会としての目標を中心に話し合い。完成すれば発信する。

①がん相談支援の質の向上と活用の促進に努める

実務者ミーティングを情報連携部会として行うこととなった。目標管理の時間として実務者ミーティングの2時間から15分延長することとなった。物事を決定しないといけない際には部会として部会員が議決権をもつ。進捗管理については部会、交流会や研修会に関しては実務者の会議となる。部会員と実務者が同一でない場合には、議決の際には部会員の先生に来ていただくか誰かに委任していただくようにして下さい。

②就労支援

全体の交流会を本日実施できた。他に県の部会全体で一丸となって何かできないかを事務局で検討した結果、どの病院でもとりかかれそうな「初診時に仕事を辞めないでキャンペーン」を考えている。チラシをつくるので各拠点病院で配布や掲示をしてPRしていただければ。(34分)

③ピアサポートの体制づくり

9/23、24 養成研修 9/30、12/15 フォローアップ研修

ファシリテーターの方はご協力お願いします。

④部会の組織の強化

実務者ミーティングを情報連携部会として運営する。

⑤県内のがん相談支援の質の向上と人材確保

県内で認定がん相談専門相談員4名育成を目標。

指導者研修は今年度該当なし。来年度以降開催されれば派遣を検討する。

地域がん相談支援フォーラムは次回31年度開催 兵庫県がホストとなっている。2019年秋(10月頃)を予定。

●5/23 国の部会

拠点病院の指定要件が変更されるかもしれないとの情報

相談員の配置要件として(現)専従1名+専任1名→(新)常勤かつ専従2名以上体制が

求められるようになる 職種は看護師と社会福祉士・精神保健福祉士を置く。(ただし1名ずつ必要ではなく兼任者でも可)

●次回会議予定 10/6 (土) 場所 神戸大学附属病院

前年度指導者研修を受講した神戸大学病院 酒見さん、県立がんセンター 岩城さん、神戸中央市民病院 橋本さんで企画した「単身者の支援を考える」をテーマに研修形式で行う。認定がん相談専門員の単位認定の位置づけとなっている。

詳細は後日お知らせ。担当病院は姫路医療センター。

【両立支援の加算について実績のある病院からの情報共有】

・兵庫医科大学病院 西村氏

1例のみ。対象患者が少ないとは想定している。モデル的に乳腺・血液の若年患者を対象に動き出している。診療報酬の規定のとおりフローで動いている。がんセンター医師に協力してもらっている。フォーマットは医師が書きづらいとのことガイドラインに沿った形ではあるがオリジナルでチェックボックス式にして復職用と就労継続用の2種類を作成。産業医から返信がもらえるようなフォーマットにしている。対象は若年者で治療期の患者、初回治療で病棟師長からの声かけをしていただいた。いいタイミングで声をかけられたことと産業医もいてくれたことではじめられた。どのくらいのニーズがあるかは様子見の状況。

・姫路赤十字病院 井上氏

両立支援コーディネーター研修を受けて数日後にたまたま主治医に副作用のしびれのことなどを意見書に書いてほしいとの希望があり今回の制度のことについて有料となることも含めてお伝えし、了解を得て介入。まずはモデルの書式を使って情報を集め、主治医に対しては下書きを示して記載していただいた。ただ産業医の返書について依頼の文書をつけていなかったため返信がなく両立支援としての診療報酬がとれていない。ひとまず診断書料として算定した。まだフローもつくれておらず文書の登録もしておらずこれから準備していくところ。まだ1例のみ。

・加古川中央市民病院 和田氏

フローや文書については厚労省のガイドラインに沿って対応している。返書依頼についても文書を添付した。患者のピックアップは外来看護師から告知時に仕事をしているかの確認とパンフレットを渡してもらっている。モデル事例として学校の先生、患者から産業医と聞いていた先生から産業医ではなく“健康管理医”だとお叱りを受け対応して頂けなかった。結局診断書料としてコストを算定。職場でも支援の取り組みを知らない産業医の先生もどうしてよいかわからないので職場や産業医に対し詳しく説明が必要といった現状がある。

(質問)

・神戸市立医療センター中央市民病院 橋本氏
企業への周知について県の取り組みはどうなっているか?→特にない。

(3) 目標管理シート進捗管理作業

各病院ごとに実施。

次回会議予定 平成30年10月6日(土) 神戸大学医学部附属病院にて
研修形式 テーマ「単身者の支援を考える」 ※認定がん専門相談員 単位取得研修
担当病院 姫路医療センター
詳細は後日連絡

第2回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議 議事録

日 時 平成30年10月6日(土) 13:00~15:45
場 所 神戸大学医学部附属病院 第1病棟2階 共通カンファレンスルーム
当 番 姫路医療センター
出 席 者 第2回出席者名簿に記載(別添)

1. 認定がん専門相談員単位認定研修(Ⅲ群認定研修)

予定通り実施(研修資料参照)

25病院55名の参加(事前申し込み55名、1名欠席、1名当日参加)

研修修了において受講証明書発行55名(名簿リスト参照)

1) 講義①

独居の方が最期まで安心して過ごすための「成年後見制度」「死後事務委任契約」の上手な使い方

講師 一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター 行政書士 米田和広
一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター 行政書士 中村修治

2) 講義②身寄りのない方が亡くなった場合について～神戸市遺留金取扱条例～

講師 神戸市保健福祉局生活福祉部保護課 医療係長 平田大輔

3) グループ討議

2. 連絡事項

特になし

3. PDCA進捗確認

各病院で実施

次回会議: 12月15日(土) 西脇市立西脇病院 当番

第3回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会 【議事録】

【概要】

日時： 平成30年12月15日(土) 午後2時30分～午後4時00分
場所： 兵庫県立がんセンター 大会議室
出席者： 名簿参照
担当： 西脇市立西脇病院

【議題・内容等】

1. ピアサポーターとの交流会

(1) ピアサポーター関連研修の概要説明：

⇒ 神戸大学医学部附属病院 がん相談室 酒見氏より、ピアサポーター養成研修およびフォローアップ研修の概要等について説明（別途資料あり）

(2) グループワーク：

テーマ『がん相談員が、ピアサポーターと共に、
がん患者や家族に対しより良い支援ができるために』

⇒ 部会当日は、午前中に同会場にて「平成30年度兵庫県がんピアサポーターフォローアップ応用研修」が開催された。その参加者のうち16名と、部会員等（がん相談担当者）が、おおむね活動地域ごとに分かれたグループ（7グループ）にわかれて、テーマに沿って情報交換を行った。

〔主な意見〕

- ・ がん相談部門へ行くハードルを下げる方策を。医療者から積極的な紹介を。相談部門へ行きやすい環境を。カフェのような感じで整備している医療機関もある。
- ・ 患者会同士の交流会があってもいいのでは。
- ・ 告知早々が最もつらい。その段階からサポートできる体制の検討を。
- ・ 病院側は、ピアサポーターと相談希望者のマッチングが難しい(名簿以上の情報がないので)。
- ・ ピアサポーターの横の連携がもっとできればいいのでは。サポーター同士のつながりをコーディネートできる仕組みがあれば。
- ・ サロンに参加しやすい環境を、医療機関側にも検討していただきたい。
- ・ ピアサポーターの得意・不得意について相談員側にも情報があれば。名簿上にも簡単なプロフィールの記載があるが、登録時点の情報のみで更新がない。
- ・ 病院の相談員とピアサポーターが、顔を合わせる機会がもっと多く必要。
- ・ サロンや患者会の効果的なPRも必要。フェイスブック、ホームページでPRをしている会もある。
- ・ 病気をオープンにしにくい人もいる。もっと隠れたニーズがあるのでは。ただ、そういう人へのサポートは慎重であることも必要。

- ・ ピアサポートを担う人を養成するだけでは不十分。サロン等からピアサポーターが自然発生する形が理想では。
- ・ 相談支援センター側も、ピアサポーターの効果などのPRを積極的にしてほしい。

〔県ピアサポート事業についての意見〕

- ・ 個別の依頼を受けたことがない。「ピアサポーターが2人同席で面談」などの規程上のハードルが高いのでは。もっと実施しやすい方法を。
- ・ モデル事業の実施など、拠点病院にもっと浸透するための取り組みを。地域・県全体で検討を。
- ・ 今まで、県事業は1施設が利用（宝塚市立病院）。ストーマ造設などについて個別に相談を希望されたケース。
- ・ 事業の形にとらわれず、身近なサロン等でピアサポートできるのがよいのでは。各医療機関等が主体的に活用を検討しては。

2. 連絡事項

12月4日に「第11回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会」が、国立がん研究センターにて開催済。第3期計画の項目等のアナウンスのほか、全国の各ブロックの地域相談支援フォーラムについて報告等あり。近畿の相談支援フォーラムは来年秋を予定。事務局病院及び、他府県の企画委員会で内容調整を進めていく。

相談記録フォーマットについて：第3期計画の変更により、フォーマットを変更予定。

3. 目標管理（PDCA）進捗状況確認

各医療機関にて実施

〔次回〕

日時： 平成31年3月23日(土)

場所： 兵庫県立がんセンター

担当： 公立豊岡病院組合立 豊岡病院

第4回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議 議事録

日 時：平成31年3月23日（土） 13:30～15:00

場 所：兵庫県立がんセンター 2階 大会議室

当 番：公立豊岡病院（細見、岡田、原）

出席者：別紙 第4回出席者名簿 参照

【議題】

1. 平成30年度PDCAサイクルの評価（計画の進捗状況報告、各機関資料参照）

2. 質問・意見交換

Q. 兵庫県立がんセンターにおいて、ゲノム医療に関して、今年度相談窓口として新たに
取り組まれたことはあるか

A. ゲノム医療開始時、ゲノムセンターのセンター長と、どのようなシステムで動くか・
どのような相談において情報をどう共有するかを考え、勉強会やカウンセラーでの
サポートなど体制作りを行った

その中で、医師よりゲノム医療に関する勉強会の実施や、対応する中で相談員同士
の情報共有を重ねた

Q. 実際の相談でゲノムの医師に介入してもらうことはあるか

A. 一般的な情報提供はがん相談センターでもできるが、相談内容によっては、今、ゲノム
医療やパネル検査を受けた方がいいのか、どの治療を選択すべきか等の専門的な内容
は、相談員対応困難にて、医師に2～3件対応してもらった歴はある

3. その他連絡事項

*次年度について（神戸大学医学部附属病院 酒見氏より）

協力病院：柏原病院(2年目)、西脇病院(1年目)

*情報・連携部会 当番病院

第1回：6月頃開催 兵庫県立淡路医療センター

第2回：9月頃開催 近畿中央病院

第3回：12月頃開催 兵庫医科大学病院

第4回：3月頃開催 姫路赤十字病院

4. 次年度の取り組みについて

*情報連携部会について（兵庫県立がんセンター 橋口氏より）

別紙 PDCA サイクル表参照

- ・次年度の情報・連携部会の内容について
 - 第1回：“就労支援の充実”を目的とした内容
 - 第2回：テーマ「ゲノム医療にがん相談はどう対応するか」の研修
 - 第3回：ピアサポーターとの交流会
 - 第4回：活動報告

- ・ピアサポーターの養成研修
兵庫医科大学病院が運営担当、6月に実施予定

- ・認定がん専門相談員の増員を目指し、かつ指導者研修において、次年度は開催されると思われるので、受講生を兵庫県としても派遣検討していきたい

- ・地域がん相談支援フォーラム in 近畿を開催予定（当番病院：兵庫県）
日程：2019年12月6日(日)
場所：中央市民病院
テーマ：「高齢がん患者の支援を考える」
 パネルディスカッション、講演、グループワークを予定
 講演：国立がん研究センター東病院 小川先生
運営委員会を組織予定であり、各機関へ協力依頼予定

- ・兵庫県立がんセンター 橋口氏異動
2019年4月～担当者変更
当番病院が行うべき内容等について、事務局より各機関へ情報発信を行っていく

第20回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会事務局会議 議事録

日時：平成30年5月30日（水）13:00～14:30

場所：神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 第三会議室

参加者：兵庫県疾病対策課（鶴井成央、味園真実）、兵庫県立がんセンター（橋口周子）、神戸大学医学部附属病院（木澤義之、酒見惇子）、兵庫県立柏原病院（井上清美、廣瀬智子）、西神戸医療センター（稲山友代、板東由美）

司会：木澤情報・連携部会長

議事録作成：酒見

議事内容

1. 今年度の目標・計画（目標管理シートに併せて進行）

1) がん相談支援の質向上、活用の促進に努める

- ・各施設がチェックリストを元に問題点を明らかにして、質の改善計画を立案した。平成30年3月に開催した実務者ミーティングで、各施設の平成30年度の活動計画を共有した。
- ・年4回開催する実務者ミーティングの際に、毎回15分の目標の進捗管理の時間をとる。各病院には左記の予定を告知し、目標管理シートの事務局への提出と当日の持参を依頼する。
- ・実務者ミーティングの内容は以下とする。
 - ・平成30年度第1回会議 2018年6月7日（木）
内容；兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センター、ハローワークとの意見交換会
 - ・平成30年度第2回会議 2018年10月6日（土）
内容；認定がん専門相談員認定単位研修 テーマ；単身者の支援について
 - ・平成30年度第3回会議 2018年12月15日（土）
内容；ピアサポーターとの交流会 ※午前中にピアサポーターフォローアップ研修
 - ・平成30年度第4回会議 2019年3月23日（土）
内容；各施設の質改善活動の評価

2) がん患者の就労支援を行う体制づくりをする

- ・第1回の実務者ミーティングで、就労支援の関連団体との意見交換会を行う。
- ・初診時の離職を防ぐための対策が必要である。患者への啓発資料の作成を検討する。ポスター案を作成し（橋口）、校正を業者に依頼する。
- ・6月11日に行われる兵庫県議会の一般質問では、就労支援に関する質問があるかもしれない。6月7日の情報・連携部会における社労士等との意見交換も新たな取り組みとして答えられるかもしれない（兵庫県疾病対策課）。

3) がん患者のピアサポートの体制づくり・継続を支援する

- ・ピアサポーター養成研修を、9月29日（土）・9月30日（日）の2日間で実施予定。昨年度に引き続き、松本陽子氏に講師を依頼している。会場は兵庫県立がんセンター。
- ・フォローアップ研修を、9月30日（日）（目的：質の維持、内容：基礎の振り返り・ロールプレイ）、12月15日（土）午前（目的：質の向上、内容：活動の場の構築に関するレクチャー・難易度を上げたロールプレイ）で実施予定。
- ・2月の幹事会、4月の協議会で、今後ピアサポーター養成研修の開催は、がん診療連携拠点病院が

持ち回りで担当し、経費はその病院が負担することの了承を得た。担当順などは9月頃を目途に決定する。

4) 情報・連携部会の組織を強化し、迅速に意思決定し事業を行える体制を整える

- ・4月の幹事会で部会長より、部会員として実務者を推薦してもらうよう要請した。高砂市民病院を除く拠点病院については、部会員への実務者の登録が完了している。
- ・平成30年度第1回のミーティングより、名称を情報・連携部会実務者ミーティングに変更して開催予定。今後の実務者ミーティングの開催案内は、担当病院から、相談員メーリングリストと情報・連携部会メーリングリストに回す。
- ・年4回のミーティングの同日に情報・連携部会を開催する（目標管理、予算承認）。
- ・実務者ミーティングの事務局は、名称を情報・連携部会事務局と変更し、その機能は存続させる。平成30年度第1回の事務局会議より、名称変更と平成30年度の事業計画の確認を行った。
- ・兵庫県がん診療連携協議会事務局への事務業務移行が未達成。情報・連携部会長からも、業務の依頼を行う。

5) 県内のがん相談支援の質の向上を推進する人材を育成する

- ・10月6日にがん相談実務者ミーティングで単位研修を開催予定。
- ・各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うように、情報・連携部会実務者ミーティングの際に、働きかけを行う。
- ・今年度は国立がん研究センターがん対策情報センター主催のがん相談指導者研修の開催はない。次年度、研修への参加を呼びかける。

6) 平成31年度地域相談支援フォーラム in 近畿を開催する

1) 国立がん研究センターがん対策情報センターの地域相談支援フォーラム共催団体に応募する

- ・情報・連携部会長より、来年度以降の地域相談支援フォーラムの枠組みについて、国立がん研究センターの地域相談支援フォーラム事務局に問い合わせを行ったが、未定との返答があった。
- ・2019年10月5日（土）または6日（日）で開催できるよう、準備を行う。
 - ・医師会館など200～300名が収容できる会場を探す（兵庫県疾病対策課）。
 - ・内容については今後検討を行う。
 - ・これまでの運営方法について問い合わせる（橋口）。
 - ・兵庫県がん診療連携協議会事務局の協力について確認する（木澤）。
 - ・国立がん研究センターからの補助金がない可能性もあるため、費用を抑えた運営を検討する（ペーパーレス、ウェブ上の受付システムなど）。

2. その他

- ・木澤情報・連携部会長より、平成30年6月のがん診療連携拠点病院等の指定要件の見直しについて、話題提供があった。今後診療機能によって、「地域がん中核拠点病院（仮称）」「地域がん診療連携拠点病院」「準地域がん診療連携拠点病院（仮称）」の3つに分類される。情報・連携部会に関連する内容には、がん相談支援センターには看護師および社会福祉士・精神保健福祉士の両職種の配置が盛り込まれる予定。来年4月より実施となる。

第 21 回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会事務局会議 議事録

日 時：平成 30 年 10 月 6 日（土）15:00～15:45

場 所：神戸大学医学部附属病院 第一病棟 2 階 共通カンファレンスルーム

参加者：兵庫県疾病対策課（鶴井成央）、兵庫県立がんセンター（橋口周子）、神戸大学医学部附属病院（木澤義之、酒井紀子、酒見惇子）、兵庫県立柏原病院（井上清美、廣瀬智子）、西神戸医療センター（稲山友代、御園和美）

議事内容

1. 地域相談支援フォーラムの運営について

- ・兵庫県のがん相談実務者のメーリングリストでテーマを募集した結果、複数案があがった（AYA 世代、高齢者支援、遺伝性がん、希少がん、補完代替療法、サバイバー支援、妊孕性、ACP、がんゲノム、相談員の質向上のための適切な評価）。他地域の開催テーマなども加味し、「高齢者支援」を取り上げたい。意思決定の問題や、多疾患を抱えるがん患者や認知症合併のがん患者も増えており、その支援の必要性が高まっている。地域包括ケアシステムとの兼ね合いも話題となっている。
- ・丹波地区の取り組みを報告いただくのもよいか。
- ・日や場所について、神戸大学病院酒見が検討する。
- ・講師の候補とプログラム案について、木澤部会長から提案いただく。
- ・次回 12 月に、プログラムのたたき台を作成する。

2. 来年度の部会会議内での研修会の位置づけについて

- ・都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件の変更により、「当該都道府県の地域拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院の相談支援に携わる者に対する継続的かつ系統的な研修を行うこと」となっている。単位研修については、県立がんセンター主催の研修会との位置づけとする。

3. がんピアサポーター養成研修およびフォローアップ研修の開催について

○養成研修・フォローアップ基礎研修

- ・兵庫県鶴井班長より、延期となったピアサポーター養成研修等の開催について提案があった。養成研修等を来年度 4 月以降に開催する別紙「ピアサポーター養成研修およびフォローアップ研修の開催について」【案 4】のとおりとする。
- ・松本陽子氏の日程について、兵庫県疾病対策課味園氏に確認していただく。
- ・次年度開催となるので主催者は持ち回り先の病院になるが、兵庫県疾病対策課も協力する。費用についても、必要であればできる限り同課で協力する。

- ・担当病院は西神戸医療センターに打診する。病院側に確認していただく。

○フォローアップ応用研修

- ・予定通り、12/15（土）に開催する。ピアサポーター導入の取り組みについて、宝塚市立病院などすでに導入などを行っている病院に報告いただく。

4. その他

- ・今回、台風接近に伴う部会決行の案内が遅くなった。天候の問題の場合、直前まで検討が必要であると考えられる。連絡の取り方や出欠確認の方法について、順次担当する担当病院が対応しやすいよう、マニュアルを作成する。神戸大学病院酒見が案を作成する。

次回日程

日時：12月15日（土）

場所：兵庫県立がんセンター

議題：地域フォーラムの運営について

第22回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会事務局会議 議事録

日 時：2018年12月15日(土) 16:30～18:20

場 所：兵庫県立がん相談支援センター 第2会議室

参加者：兵庫県疾病対策課（鶴井成央、味園真実）、兵庫県がんセンター（橋口周子）、神戸大学医学部附属病院（酒見惇子、酒井紀子）、西神戸医療センター（稲山友代）、兵庫県立柏原病院（広瀬智子、井上清美）

司会：酒見惇子 議事記録：井上清美

議事内容

1. 地域がん相談支援フォーラムの運営について （配付資料参照）

1) 主催・共催・後援

運営母体については企画委員会を立ちあげ、兵庫県情報連携部会事務局が中心となり近畿6府県の相談支援連携部会 都道府県拠点病院からもメンバーとして参加していただく。（人数は各府県1～2名）

当日の運営のお手伝い（実行委員）は、情報連携部会から募り他府県からも1～2名募る。

2) 位置づけ

認定がん専門相談員認定事業におけるⅢ群申請

3) 対象

・近畿6府県、及び隣接県のがん診療拠点病院、都道府県認定がん診療協力施設またはそれに準ずる中核病院などで、がん相談支援業務にかかわる方。

・先着順。1施設からの申し込みは2人程度、多数の場合は事務局で調整。

4) 開催時期・場所

・開催時間は、Ⅲ群申請を最低限満たすように（研修受講時間2時間以上）

① 開催時期：第1候補 10月5日（土）、第2候補 10月6日（日）

② 場所：候補 ・神戸市立医療センター中央市民病院

・兵庫県医師会館

・三ノ宮コンベンションセンター

※事務局で各候補施設の状況確認していく

5) 講師候補・プログラム

①テーマ：「高齢者支援」をメインテーマに、意思決定の問題や、多疾患を抱えるがん患者や認知症合併のがん患者も増えており、その支援の必要性が高まっている。地域包括ケアシステムとの兼ね合いも話題となっている。

次回、2月ごろには企画委員会を予定し、それまでにメーリングリストで「高齢者の相談支援での困りごとや難点」について状況や情報収集し、テーマを絞っていく。

②講師候補：テーマ・日程を踏まえ今後依頼していく。

6) 募集人数

150人程度（実行委員含む）

7) 経費

- ・例年は参加費無料（昼食代1000円）。旅費などは参加者の負担とする。
- ・今年度は国の助成はなし。
- ・経費を下げる検討必要～申し込み手続きの簡略化。資料印刷は各自で 等

8) 開催までの準備

- ・今後年度内1回、開催までに計3回のミーティング予定～2月・6月・9月
- ・都道府県拠点病院への連絡は、議長の下承を得 部会長名で通知を行う。

2. がんピアサポーター養成研修の開催について

1) 次年度は兵庫医科大学附属病院が担当で開催決定

開催日時は6月1日・2日 愛媛おれんじの会 松本陽子氏に講師依頼

2020年は兵庫県立がんセンターの予定

2) 今後（2021年度以降）どのようにこの研修を担当していくのかを、今年度から来年度中には決定し部会でも周知していく。

- ・圏域でやるのかブロックに分けるのか、北の地域における開催方法など検討必要。

3) 本日の研修を受け、「ピアサポートの活用の規約」はピアだけの個別相談という、究極の場面に対して作られたもので、本来のピアサポートは患者サロンや集いで発揮されることがベースにある。ピアサポート研修は、サポーターのスキルアップのためにある研修という認識を持っていただくことが必要。患者サロンへの参加も意味があるということ、参加証などの発行で位置づけしていくことが必要ではないか。→次年度からできるよう検討。

3. 情報・連携部会運営のためのマニュアル作成について

当番病院・事務局の役割について捉え方に違いがあり、メンバーの交代などによってやり方が分からなくなることもある。

来年度初めにはマニュアル配布できるように、今年度中に完成させていく。内容についてはメールで検討。

4. その他

・今年度より国立がん研究センターでは、「相談の質保証を学ぶ QA研修」を開催されている。来年度からがん相談認定更新の要件が変更になり、モニタリングも追加になるので研修に取り入れてはどうかと思われる。

2020年度までに講師料無料で研修会の講師派遣がされ、応募期間は1月31日までとなっている。

次年度部会の研修会にQA研修を取り入れたい。→了承

第23回 兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会事務局会議 議事録

日時：2019年3月8日（金）13:00～14:30

場所：神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 第三会議室

参加者：兵庫県疾病対策課（味園真実）、兵庫県立がんセンター（橋口周子）、西神戸医療センター（御園和美）、神戸大学医学部附属病院（木澤義之、酒井紀子、酒見惇子） 敬称略

司会：木澤情報・連携部会会長

書記：酒井

議事内容

1. 今年度の評価と次年度の目標・計画（資料：PDCA サイクル表参照）

1) がん相談支援の質向上、活用の促進に努める

- ・「実務者ミーティング」を「兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議」に修正する。
- ・来年度も目標・計画は継続する。
- ・来年度の兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議の日程を変更する。

2) がん患者の就労支援を行う体制づくりをする

- ・新規計画で挙げていた「患者への啓発資料の作成を検討する。」については、未達成としたが、兵庫県医師会が、パンフレットなどを作成していないか確認する。（酒見さん）
- ・来年度も目標・計画は継続し、3) 「離職を防ぐための患者への啓発資料を作成する」を追加する。

3) がん患者のピアサポートの体制づくり・継続を支援する

- ・研修を修了したピアサポーターの相談支援活動については、県への実施報告とメーリングリストでの確認を行う。（酒見さん）
- ・来年度も目標・計画は継続し、1) ④「研修を修了したピアサポーターが充実した活動を行えるよう支援する。」を追加する。

4) 情報・連携部会の組織を強化し、迅速に意思決定し事業を行える体制を整える

- ・目標・計画は達成できたため終了とする。

5) 県内のがん相談支援の質の向上を推進する人材を育成する

- ・来年度も目標・計画は継続する。
- ・来年度のがん相談指導者研修は、3月中に希望を募り3名を選考する。
申し込み期間 4月1日～4月19日 木澤情報・連携部会会長の推薦が必要となる。

6) 2019年度地域相談支援フォーラム in 近畿を開催する

- ・来年度も目標に挙げ、計画に関しては、詳しく記載する。

2. 2019年度地域相談支援フォーラム in 近畿の運営について

1) 酒見さんより、第1回地域がん相談支援フォーラムに関する打ち合わせ（1月24日）の報告があった。（資料：②③参照）

打ち合わせでは、企画書の確認を行い、日時、場所、運営方法について承認された。

日時：10月6日（日）、場所：神戸市立医療センター中央市民病院

2) 企画書の確認を行い、全体の流れは承認された。

- ・講演は、国立がん研究センター東病院の小川朝生先生に講師を依頼した。再度木澤医師から依頼していただいた。今後は、小川先生との調整を進める。（酒見さん）
- ・開会または閉会のあいさつは、国立がん研究センターに依頼する。（酒見さん）
- ・申し込みのフォーマットや手順は国立がん研究センターと相談する。（酒見さん）

- ・運営委員については、兵庫県内のがん相談実務者に準備状況を報告し、運営委員を募集する。

3) グループワークについて

- ・ファシリテーターは、推薦で決める。
 - ・検討テーマについて話し合い、以下の4つのテーマに決定した。
 - テーマ①：本人の意思決定をどう評価して支援に繋げるのか
 - サブテーマ「この人本当に大丈夫？」と思う時、どう評価するのか
 - テーマ②：家族の意見が強く、本人の意見と異なる時の支援方法
 - テーマ③：意思決定能力がないわけではないが、不十分な場合どう支援するか
 - テーマ④：ソーシャルサポートのない患者をどう支援するか
 - 独居高齢者、家族がいるけれど何もしてくれない、高齢夫婦、家族が遠方の場合など
- 今後、たたき台を作成し、メール配信する。(酒見さん)

3. 2019年度ピアサポート事業について

兵庫県より広報を開始している。

1) ピアサポーター養成研修

- ・日時：6月1日(土)・2日(日)、場所：兵庫医科大学病院

2) ピアサポーターフォローアップ研修(例年と同じ場合)

- ・日時：基礎編6月2日(日)、応用編12月21日(土)

3) 今後の研修事業運営について

- ・6月開催時に次回の案内ができるように調整を行う。開催場所は、西播磨地域での開催を候補とする。姫路赤十字病院の井上さんに確認をする。(橋口さん)
- その他候補としては、兵庫県立がんセンター、関西労災病院が挙げられた。

4. 2019年度兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議について

1) 2019年度の日程と会議の内容を検討した。

- ①第1回会議 日時：6月 日程は兵庫県立がんセンター会議室の空き状況を確認し、平日で調整する。内容は、兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センター、ハローワークとの合同ミーティングとする。

兵庫県社会保険労務士会へは酒見さん、産業保健総合支援センター、ハローワークへは橋口さんより連絡を行う。

②第2回会議 日時：8月31日(土)

内容は、「ゲノム医療にがん相談はどう対応するか」のテーマで単位研修とする。

兵庫県立がんセンター川崎先生に講師を依頼し、日程調整を進める。(橋口さん)

③第3回会議 日時：12月21日(土)、内容：ピアサポーターとの交流会(午前中フォローアップ研修)

④第4回会議 日時：3月21日(土)、内容：各施設の質改善活動の評価

- ・全て会場は県立がんセンター、13時頃～14時頃を予定している。
- ・会議の議題に、地域相談支援フォーラム in 近畿の進捗状況の確認を加える。
- ・「相談の質保証を学ぶQA研修」は、2020年度のテーマとして検討する。

5. 情報・連携部会会議および担当病院の運営マニュアルについて(資料：⑧～⑩参照)

- ・「兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議開催要領」を一部改訂した。
- ・「兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会実務者ミーティング 当番病院運営要領」を作成し、最終版をメール配信する。

- ・「がん相談支援センター実務者ミーティング 事務局協力病院及び当番病院予定表」を作成した。
3月23日兵庫県がん診療連携協議会 情報・連携部会会議にて、メンバーに周知する。
来年度の事務局協力病院の西脇市立西脇病院には、橋口さんより連絡を行う。

6. その他

- ・木澤情報・連携部会会長より、第3期基本計画の中間評価指標について説明があった。(資料参照)

次回日程調整未

兵庫県がん診療連携協議会「がん登録」部会関連

項 目	内 容
平成30年度の活動報告	<p>○ がん診療連携協議会 がん登録部会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき・ところ: 6月19日・兵庫県学校厚生会館 ・ 検討事項: 3大がん(大腸・肺・胃)の施設別治療法の登録件数と割合の公表方法、届出後の初回治療の追加登録(登録方法・時期等) ・ 報告事項: H30都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会の結果、地域がん登録の状況 ・ 参加者: 40病院 51人 <p>○ 院内がん登録実務者ミーティングの開催(年2回開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回・院内がん登録実務者ミーティング(研修) <ul style="list-style-type: none"> とき・ところ: 11月30日・神戸市立西神戸医療センター地域医療ホール大ホール テーマ: SEER2007(多重癌ルール)について 講 師: 国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 江森 佳子 氏 参加者: 46病院 76人 ・ 第2回・院内がん登録実務者ミーティング <ul style="list-style-type: none"> とき・ところ: 2月1日・県立がんセンター テーマ: 2016年登録数と治療別集計と院内がん登録の統計活用事例 参加者: 36病院 49人 <p>※兵庫県がん診療連携協議会HPに「施設別・部位別院内がん登録数・治療数(2016)」を公表</p> <p>○ 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき・ところ: 5月25日・国立がん研究センター 新研究棟セミナールーム ・ 報告事項: がん登録の動き、院内がん登録2016年全国集計結果 等 ・ 検討事項: 集計報告(0年集計、生存率報告) 等 <p>* 全国がん登録実務者研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき・ところ: 8月29日・神戸大学医学部会館シスメックスホール ・ テーマ: 全国がん登録への届出実務～具体的な症例に即した登録時のポイント～ ・ 講 師: 国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 全国がん登録分析室長 柴田亜希子氏 ・ 参加者: 132病院 195人
平成31年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>○ がん診療連携協議会 がん登録部会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき・ところ: 6月28日・兵庫県学校厚生会館 <p>○ 院内がん登録実務者ミーティングの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回・院内がん登録実務者ミーティング(研修) <ul style="list-style-type: none"> とき・ところ: 9月11日・神戸市立医療センター中央市民病院 講 師: 国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 江森 佳子 氏 ・ 第2回・院内がん登録実務者ミーティング <ul style="list-style-type: none"> とき・ところ: 2月頃・県立がんセンター テーマ: 院内がん登録数集計報告等(予定) <p>○ 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき・ところ: 4月24日・国立がん研究センター 新研究棟セミナールーム ・ 報告事項: 最近のがん登録の動向、院内がん登録全国集計報告書について 等 ・ 検討事項: 全国集計の今後の方針について、院内がん登録全国データ活用の在り方 <p>* 全国がん登録実務者研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき・ところ: 8月30日・神戸大学医学部会館シスメックスホール ・ 講 師: 国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 全国がん登録分析室長 柴田亜希子氏

《平成30年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

平成31年 3月 末日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
が ん 登 録 部 会	がん診療情報を収集・分析する体制整備	<p>拠点病院の指定要件として、院内がん登録のデータを活用し、登録数や各治療法についてのがん種別件数をホームページ等で情報公開するよう努めることとされている。</p> <p>平成28年度より県がん診療連携協議会のホームページにおいて加盟病院別の件数・割合を掲載しており、今後、胃、肺、大腸がんの施設別治療法件数・割合も掲載する予定であるが、より患者のニーズに対応した掲載内容とすることが必要である。</p>	<p>患者等に役立つデータの掲載に向け、情報の取り扱いに配慮しながら、県がん診療連携協議会がん登録部会の下部組織であるがん登録実務者ミーティング等で検討を重ねいく。</p> <p>検討結果ついて、加盟病院に了解を得られたデータ等を協議会ホームページに掲載する。</p>	H31年3月	○	達成	<p>がん診療連携協議会のホームページに、がん登録部会の院内がん登録実施施設の2016年院内がん登録数と大腸・肺・胃がんの施設別治療法集計データを掲載した。</p> <p>(この集計は、がん登録実務者ミーティングで検討を重ね、平成31年2月に開催された兵庫県がん診療連携協議会幹事会で公表を承認されたものである。)</p>	継続	<p>来年度もがん登録部会・実務者ミーティングで検討しながら2017年診断症例の情報収集に努め、兵庫県のがん診療や県民に役立つ情報提供を行っていく。</p>
	がん登録実務の精度向上	<p>平成28年1月にがん登録等の推進に関する法律が施行され、院内がん登録実務者のレベルアップが課題となっている。</p>	<p>年2回(9月、2月)、がん登録実務者ミーティングを開催(うち1回は講義形式)し、がん登録に係る知識向上、情報共有等を図る。</p> <p>各施設毎に国立がん研究センターが主催する初級者認定試験や初級者・中級者研修や更新試験、データ集計・分析研修に積極的に参加し技能を磨く。(全国がん登録セミナーなど研修にも参加する。)</p>	H31年3月	○	達成	<p>第1回院内がん登録実務者ミーティング(研修)11月30日:神戸市立西神戸医療センター地域医療ホールにて開催/テーマ:SEER2007(多重癌ルール)について講師:国立がん研究センター/46病院 76名県内外実務者参加</p> <p>第2回院内がん登録実務者ミーティング(統計・分析)2月1日:姫路赤十字病院担当・県立がんセンターにて開催 テーマ:2016年登録数と治療別集計と院内がん登録の統計活用と全国がん登録情報提供申請について/34病院 49名県内実務者参加</p>	継続	<p>年2回(9月、2月)、がん登録実務者ミーティングを開催(うち1回は講義形式)し、がん登録に係る知識向上、情報共有等を図る。(ミーティングの時間内で圏域毎のグループワーキングの勉強会なども行っていく。)</p>

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《2019年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成31年 4月 1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
が ん 登 録 部 会	がん診療情報を収集・分析する体制整備	<p>拠点病院の指定要件として、院内がん登録のデータを活用し、登録数や各治療法についてのがん種別件数をホームページ等で情報公開するよう努めることとされている。</p> <p>平成28年度より県がん診療連携協議会のホームページにおいて加盟病院別の件数・割合を掲載しており、2015年症例より、施設別の院内がん登録数及び胃、肺、大腸がんの治療法件数・割合を掲載しているが、より患者のニーズに対応した掲載内容とすることが必要である。</p>	<p>患者等に役立つデータの掲載に向け、情報の取り扱いに配慮しながら、県がん診療連携協議会がん登録部会及びその下部組織であるがん登録実務者ミーティング等で検討を重ねいく。</p> <p>検討結果ついて、加盟病院に了解を得られたデータ等を協議会ホームページに掲載する。</p>	2020年3月					
	がん登録実務の精度向上	<p>平成28年1月にがん登録等の推進に関する法律が施行され、院内がん登録実務者のレベルアップが課題となっている。</p>	<p>年2回(9月、2月)、がん登録実務者ミーティングを開催(うち1回は講義形式)し、がん登録に係る知識向上、情報共有等を図る。</p> <p>また、今後圏域毎にグループワーキング勉強会などができないうか検討していく。</p> <p>各施設毎に国立がん研究センターが開催する初級者認定試験や初級者・中級者研修や更新試験、データ集計・分析研修に積極的に参加し技能を磨く。 (全国がん登録セミナーなど研修にも参加する。)</p>	2020年3月					

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

兵庫県がん診療連携協議会「緩和ケア」部会関連

項目	内容
2018年度の活動報告	<p>第6回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(国がん) (2018年12月7日) 資料</p> <p>緩和ケア部会コアメンバー会議 (神戸大学) (2019年1月29日)</p> <p>池垣淳一、木澤義之、岡山幸子、松田良信、坂下明大 (神戸大学) 濱中章洋 (淡路医療)、伊藤由美子 (がんセンター)</p> <p>緩和ケア研修会指導者の会 (22施設、疾病対策課) (2019年1月12日) 資料</p> <p>がん診療等に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 (27回) 資料</p> <p>兵庫県緩和ケアチーム研修会 「地域をサポートする緩和ケアチーム」 (2019年1月12日)</p> <p>PDCAピアレビュー 資料</p> <p>※がんセンター主催・兵庫県私学会館にて開催 (29施設89名参加)</p> <p>緩和ケアフォローアップ研修会の開催 「せん妄」 (2019年2月16日)</p>
2019年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>都道府県がん診療連携拠点連携病院連絡協議会 緩和ケア部会 (2019年12月6日)</p> <p>緩和ケア部会コアメンバー会議 (2019年5月8日) 池垣淳一、木澤義之、岡山幸子、松田良信、坂下明大 (神戸大学) 濱中章洋 (淡路医療)、伊藤由美子 (がんセンター)</p> <p>緩和ケア研修会の開催</p> <p>緩和ケア研修会指導者の会 (2020年1月25日)</p> <p>兵庫県緩和ケアチーム研修会 姫路医療センター主催 (2020年1月25日)</p> <p>緩和ケアフォローアップ研修会の開催 (2020年2月29日) (テーマ:コミュニケーション)</p> <p>検討課題1</p> <p>緩和ケアチーム地区でのピアレビューのグループ分け、査定項目の検討</p> <p>検討課題2</p> <p>緩和ケア病棟との協議、連携</p>

《平成30年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成 31年 3月 末日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
緩 和 ケ ア 部 会	各病院の緩和ケアチームによるPDCAサイクルを用いた緩和ケアの推進	公表施設が少ない(26施設)。国指定でも9施設にとどまる。	協議会、幹部会でもPDCA未公表施設があることを強調 緩和ケアチーム研修会のGWの企画改善 ピアレビューが確実にできるよう工夫する(レビュアーの指定など)	H31年 3月	○	達成	29施設89名が参加 27施設(93%)がPDCAを公表し、活動をしていた。 「他施設の活動が参考になる」99%、「PDCAのピアレビューが役立つ」94%、「次年度の計画作成の参考となった」91%との回答	継続	研修会は継続 PDCAピアレビューについては検討が必要。地区で評価できるようにする。
	拠点病院以外の医師、歯科医師の緩和ケア研修会への参加促進	拠点病院における緩和ケア研修会参加者は概ね90%を越える。拠点病院以外の医師、歯科医師の緩和ケア研修会への参加状況は把握も不十分である。	指導者の会での共通認識の確認 1. 開催指針の変更にとまない、県、群市区医師会へ緩和ケア研修会参加呼びかけを行う。 医師会に周知する(ゴールデンウィーク前までに県医師会週報に載せる) 2. 各開催病院は当該群市区医師会に働きかける 協議会ホームページに案内を掲載(4月第3週までに) 3. 年度終了時に、参加者の属性を調査し、過去の参加者と比較する。	H31年 3月	○	概ね 達成	県、群市区医師会へ緩和ケア研修会を周知した前までに県医師会週報に載せる) 2. 各開催病院は当該群市区医師会に働きかけた 協議会ホームページに案内を掲載 3. 年度終了時に、参加者の属性を調査し、過去の参加者と比較する。調査中	完了	
	他職種の緩和ケア研修会への参加促進	他職種の緩和ケア研修会への参加状況も把握も不十分である。	指導者の会での共通認識の確認 1. 協議会ホームページに案内を掲載する(4月第3週までに) 2. 各開催病院は他職種の参加を呼びかける 3. 年度終了時に、参加者の属性を調査し、過去の参加者と比較する。	H31年 3月	○	概ね 達成	1. 協議会ホームページに案内を掲載した。 2. 各開催病院は他職種の参加を呼びかける 3. 年度終了時に、参加者の属性を調査し、過去の参加者と比較する。調査中	完了	
	緩和ケア従事者の質の維持向上	緩和ケア研修会修了者の臨床における困難への対応が不十分	緩和ケアフォローアップ研修会の開催参加へのアンケートで評価する	H31年 3月	○	継続	57名が参加 アンケートの結果研修会の評価は高かった。98%が有用であるとの高い評価であった。	継続	今回は「がん治療中止を伝えるコミュニケーションスキル」をテーマとしたフォローアップ研修会を開催予定

(注)実施管理・区分欄の記入について

○評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

《 2019年度 PDCA サイクル実施計画・管理表 》

2019年 4月 1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
緩 和 ケ ア 部 会	緩和ケアの質の向上	緩和ケア研修会が1日開催となった。緩和ケア研修会の参加者が少ない。医師以外の参加者も少ない	1)各病院で緩和ケア研修会を実施する 計24回開催予定 2)年1回緩和ケア研修会指導者の会を開催する 3)緩和ケア研修会の修了者等を対象に緩和ケアフォローアップ研修会を開催する。内容としてはコミュニケーションに関するワークショップを予定している	2020年3月					
	緩和ケアチーム診療機能の向上	緩和ケアチーム研修会への参加できていない施設があり、ピアレビューが行えない。PDCAを公表しているが、すべての施設ではない。	緩和ケアチーム研修会を年1回開催、参加促進する。 年1回緩和ケアチームのピアレビューを実施し、チームの活動を振り返り、他のチームの活動から学ぶ機会をつくる PDCAを公表することの動機付けをより明確にする。作成を促す。	2020年3月					
	疼痛緩和等の実践	国拠点病院においては緩和ケアマニュアルを2年に1度改定することとなっている。一方マニュアルが十分に整備されていない病院もある。	いつでも、どこでも適切な疼痛をはじめとした体とこころの苦痛の緩和が実践できるような支援をする 各病院で苦痛緩和のための緩和ケアマニュアルを整備する	2020年3月					
	県内の緩和ケアチームの連携を深める	緩和ケア部会活動の企画立案組織が脆弱である。	緩和ケア部会とコアメンバー会議を開催する ①緩和ケア部会をWeb上で随時開催する ②緩和ケア部会ならびにその活動を円滑に推進するために緩和ケア部会コアメンバー会議を年2回実施する	2020年3月					

(注)実施管理・区分欄の記入について
C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

令和元年度 第1回コアメンバー会議議事録

令和1年5月8日 18:45~20:00

神戸大学医学部附属病院

神緑会館 研修室1

参加者：池垣、木澤、坂下、濱中、伊藤、西本、堀、岡山（敬称略、順不同）

1. コアメンバー会議について

緩和ケア部会運営を行う。今回より堀、西本が参加。

2. 昨年度活動

兵庫県がん診療連携協議会「緩和ケア」部会関連 平成30年度活動報告参照

講師招聘時には資料「緩和ケアチーム研修会開催 事務手続き」参照

3. 本年度活動

コア部会メンバーで（ア）～（オ）の活動担当者を決めて行う。

（ア）緩和ケアチーム研修会 担当：堀、池垣

1月25日午後@BIZ SPACE HIMEJI

担当拠点病院：姫路医療センター 吉村純彦 北山奈央子

（イ）緩和ケア指導者の会 1月25日午前中@BIZ SPACE HIMEJI

担当：坂下

緩和ケア指導者の会という名称では会議内容が把握しづらい印象を受ける。

→部会員、協議会に議事録を公表する。

会自体は、指導者同士の問題解決につながるもので有効である

（ウ）緩和ケアフォローアップ研修会 2月29日 @私学会館

担当：木澤、坂下

SICP : ハーバードでは3時間コース（長時間開催しても6時間）

コミュニケーションに興味があるオンコロジストにはぜひ受講して頂きたい

講師の招聘は、森先生、竹本さんを検討する

（エ）緩和ケア病棟一覧を作成

リストの項目の検討、緩和ケア病棟の一覧を作成

がん診療拠点病院から緩和ケア病棟への紹介の統一フォーマットの作成を検討

担当：伊藤、岡山

(オ) 緩和ケアチームピアレビュー

- ① 疼痛マニュアル等の緩和ケアマニュアルの作成サポート
→機能評価機構の審査を受けている場合、整備されている
- ② ピアレビューの地区分け→医療安全のグループ分けでは困難であった
- ③ 地域グループ分けについて
ピアレビューを行う際には、事前に資料の提出を求め、質問を考えて訪問が必要
国指定拠点病院間の相互訪問に留めても良いかもしれない（類似した施設背景で行う；大学は大学）
もしくはメンバー固定し訪問するのはメンバーの負担が大きいのので却下
→今年度はマッチングし、次年度に相互訪問を計画する
ピアレビューの結果を緩和ケアチーム研修会で活動報告を行ってもよい
担当者：濱中、西本、コアメンバー

4. 議事録、開催記録

		部会員	協議会
コアメンバー会議	議事録共有	議事録共有	議事録共有
緩和ケアチーム研修会	開催病院が作成 緩和医療学会報告		プログラム参加者
緩和ケアフォローアップ研修会	主催者が作成		プログラム参加者
指導者の会	指導者の会 MLで共有	決定事項のみ報告	決定事項のみ報告

5. 部会員等への連絡方法

緩和ケア部会員 連絡先一覧	一斉メールで発信 部会員は実務者でない場合もある。 返信は来ない場合が殆ど	がん診療連携協議会事務局 が管理
緩和ケアチーム メーリングリスト	緩和ケアチーム研修会に参加した人。 部会の連絡にも使うことで合意。新規 緩和ケア部会員の交代に対応できて いない場合もある	umin：坂下、池垣、 がんセンター緩和ケアセン ターが管理
指導者の会 メーリングリスト	PEACE 指導者研修会修了者 (協議会以外のメンバーも含む) PEACE 開催病院の事務担当者 1 名	外部業者 がん診療連携協議会事務局 が管理 200 件まで

- ・緩和ケア部会員にメールを流しても返信がない、部会員という認識がない場合もある
- ・緩和ケアチームメーリングリストも正確に動いていない現状。タイムリーな更新作業は行えていない。新規登録は追加可能だが、異動されたスタッフは抜いていない。
→今後の管理方法について検討が必要
- ・指導者の会 ML は外部業者が有料で管理している。umin に変更も検討

6. 緩和ケア連携パス WG

地域連携パス WG より緩和ケアの連携パスの作成について

- 平成 26 年に県医師会と「緩和ケア連携に必要な基本的事項について」を作成
- 今後、連携パスを作成する場合、医師会との連携が必要
- 在宅の緩和パスというより、がん診療拠点病院から緩和ケア病棟への紹介の統一したフォーマットが必要ではないか

7. 平成 31 年度緩和ケア部会 PDCA サイクル

- 緩和ケアマニュアルを 2 年に 1 度改定することとなっているが、マニュアルが十分に整備されていない病院もある。マニュアルの整備が行えているのか一度、アンケートをとってみる

【坂下先生より】

緩和医療学会の緩和ケアチームのセルフチェックサポートをパイロットで開催する。2 施設サポートする。今年度は神鋼病院のサポートに入る

以上 文責 岡山

がん診療連携拠点病院等における緩和ケアに関する研修会の対象者及び開催について

1) 「1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師」について

「がん診療連携拠点病院等の整備指針について」（平成30年7月31日付け健発0731第1号厚生労働省健康局長通知。以下、「整備指針」という。）のⅡの3の（1）に定める「1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師」については、がん診療拠点病院等に1年以上所属し、常勤・非常勤を含めて、患者との対面による診察を行う全ての医師を指すものとする（病理医・放射線読影医等、対面による診察を全く行わない医師は除いてもよい）。対象となる医師の診療科の具体例については、以下を参考とすること。

医師の診療科の具体例：

- ・ 消化器内科、消化器外科等の消化器系の診療科
- ・ 呼吸器内科、呼吸器外科等の呼吸器系の診療科
- ・ 乳腺外科、内分泌外科等の乳腺・内分泌系の診療科
- ・ 泌尿器科、婦人科等の泌尿器・生殖器系の診療科
- ・ 耳鼻咽喉科、頭頸部外科、口腔外科、脳神経外科等の頭頸部系の診療科
- ・ 整形外科、リハビリテーション科等の筋肉・骨格・神経系等の診療科
- ・ 血液内科等の血液系の診療科
- ・ 腫瘍内科等のがん化学療法等に関する診療科
- ・ 放射線治療科等の放射線療法に関する診療科
- ・ 緩和医療内科等の緩和医療に関する診療科
- ・ 麻酔科・ペインクリニック科等の鎮痛に関する診療科
- ・ 精神科・心療内科等の精神心理的苦痛の対応に関する診療科

（下線部が変更のある箇所）

2) 緩和ケア研修会の開催について

整備指針のⅡの3の（1）に定める、「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」（平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知の別添）に準拠し、当該医療圏においてがん診療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、都道府県と協議の上、開催することについては、以下の（ア）を満たした上で、緩和ケア研修会を主催することとされている。ただし、以下の（イ）を満たす場合、共催を可とする。

（ア）当該医療圏における、拠点病院等が連携する病院、在宅医療支援診療所・病院、

緩和ケア病棟を有する病院等の研修に関するニーズ等を、都道府県と協議の上、開催すること。

(イ) すべての臨床研修医(※)において、緩和ケア研修会を受講する体制が整備されており、下記の要件を満たすこと。

- ① 各々の施設の受講率が85%以上であること。
- ② 共催する病院に所属する2名以上の医療従事者が、主催する病院の研修開催に協力すること。
- ③ 共催する病院は、同一都道府県内であること。
- ④ 共催する病院は、1施設までとすること。
- ⑤ 定期的に共催する場合は、一方にのみ負担が偏らないように、双方が協力すること。

※「臨床研修医」とは医師法第16条の2第1項に規定されている臨床研修(卒後2年以上の研修)を受けている医師を指す。

兵庫県がん診療連携協議会「地域連携」部会関連

項目	内容
2018年度の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ○ がんパスの使用状況につき各部会で検討した。 ○ 大腸癌ESDパスの運用につき検討した。 ○ がん地域連携に関する問題点の抽出
2019年度の活動計画 及び今後の検討課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続きがんパスの使用状況を各部会で検討してゆく。 ○ 大腸がんESDパスを実際に運用し、問題点などを抽出する。 ○ がん地域連携に関する問題点を引き続き抽出する。既存の連携ノートの内容につき検討を継続する。

《平成30年度 P D C A サイクル実施計画・管理表》

平成31年 3月 末日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
地 域 連 携 部 会	パスの利用率の向上	パスの利用率は未だ十分とい いがたい。県指定拠点病院や 準拠点病院での利用率向上 が望まれる。	1 平成29年度のパスの運用状況について調査する。 2 すべての拠点病院での運用を図る 3 各部会ごとに、問題点や取り組みを検討する。	H31.3	△	未達 成	パス運用状況は調査したが、施 設によりばらつきがある。	継続	次年度も運用状況を調べ問題点 を抽出する
	がんパスの作成と運用	大腸がんESDパスの運用の検 討が必要である。	大腸がんESDパスの運用を検討する。	H31.3	○	達成	連携ノートを作成し運用の検討に 一区切りがついた	継続	作成した大腸がんESDパスの使用 状況・問題点を抽出する。
	がん地域連携の問題 点の抽出と検討	がん地域連携につき、その問 題点が共有されていない	1 がん地域連会につき問題点を抽出する 2 問題点を共有する 3 解決可能な問題点につき、各部会で解決策を検討する	H31.3	△	未達 成	地域連携パス5年日以降の対 応が問題となっている。	継続	各パスごとにアンケートを取り 各パス核施設毎の5年目の対 応を検証する。

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、**達成**・**概ね達成**・**未達成** から、A改善における区分は、**完了**・**継続**・**その他** から、それぞれ1つ選んで記入する。

《2019年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

平成31年 4月 1日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				実 施 管 理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容(計画)
地 域 連 携 部 会	バス利用率の向上	バス利用率はまだまだ高くなく、すべてのがん拠点病院での活用が望まれる	(1) 平成30年度のバス運用状況を調査する (2) すべての拠点病院で使用し、使用割合を増加する。 (3) 各部会ごとに問題点や課題を明らかにし取り組みにつき検討する。	2020年3月					
	大腸がんESDバスの実施	新規バスである大腸がんESDバスの実施が始まる。運用上の問題点を明らかにする。	(1) 大腸がんESD地域連携バスの実施状況を確認する。 (2) 問題点を明らかにする。	2020年3月					
	がん地域連携の問題点の抽出と検討	がん地域連携につき問題点が共有されていない。	(1) がん地域連携バス5年目の対応につきアンケート調査 (2) アンケート結果に基づき、課題を検討 (3) 各がん領域で、課題を検討する。	2020年3月					

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

がんの地域連携パスについて 報告

- ・平成 31 年 3 月末時点におけるがん拠点 46 病院にアンケート調査を行った。
- ・国指定 14 : 5 病院で 5 大がん全てのパスが稼働中。他の 8 病院は少なくとも 1 種類のパスが実際に稼働している。(1 病院は未回答)
- ・県指定 9 : 1 病院で 5 大がん全てのパスが稼働中。他の 7 病院は少なくとも 1 種類のパスが実際に稼働している。(1 病院は未回答)
- ・準拠点 23 : 5 大がん全てのパスが稼働中の病院はなし。9 病院では少なくとも 1 種類のパスが実際に稼働している。

他は調整中 6 病院と連携医へパス説明が終わり、連携の整備が始まろうとしている 1 病院と施設基準の届出がはじまっている 5 病院。(2 病院は未回答)

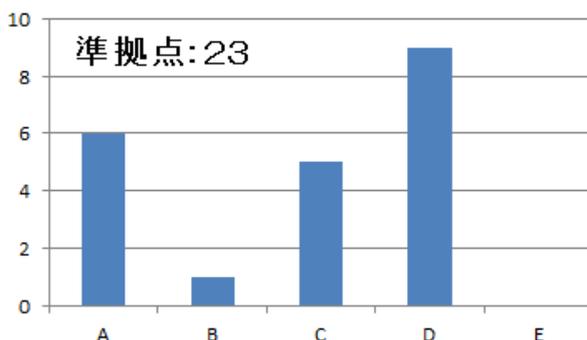
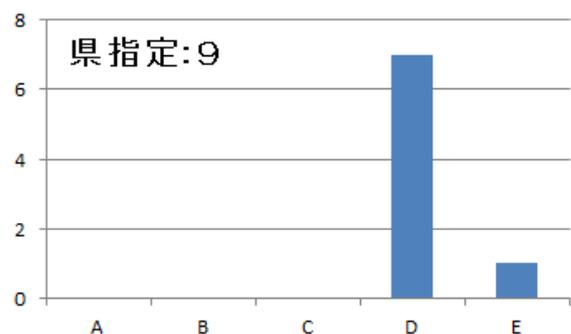
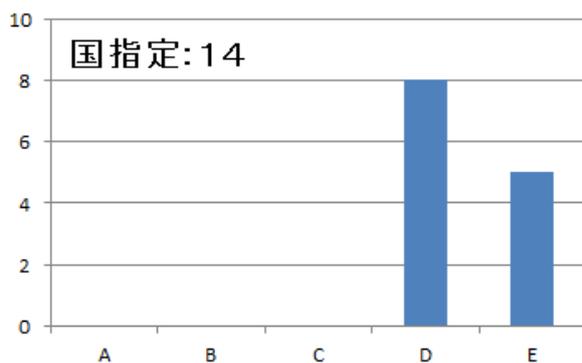
- ・平成 30 年度の登録件数は 1,120 件となり、平成 30 年 3 月末時点で、累計 7,422 件のパスが運用中。

その内訳は、乳がん 2,543 件(34.3%)、胃がん 1,835 件(24.7%)、大腸がん 1,328 件(17.9%)、肺がん件 921(12.4%)、肝がん 97 件(1.3%)、子宮体がん 4 件(0.1%)、前立腺がん 694 件(9.3%)。パス脱落は 544 件、バリエーションは 19 例であった。

アンケート, H31年3月末

がん診療連携パスの進捗状況

➤ 1. 連携システムの構築, パス進捗状況について



- A: 院内で調整中である
B: 施設基準の届け出前
C: 施設基準の届け出が始まっている
D: 実際にパスが稼働している(少なくとも1種類)
E: 5大がん全てのパスが稼働中

がん診療連携パスの進捗状況

計 7,422

➤ 2-1. パス稼働について (5大がん)

5大がん	兵庫県内パス登録件数 (平成22年4月～平成31年3月末の累計)					
	合計	乳がん	胃がん	大腸がん	肺がん	肝がん
	6724	2,543	1,835	1,328	921	97
県立がんセンター	1,607	507	403	367	301	29
近畿中央病院	548	384	103	59	2	0
神戸市立医療センター中央市民病院	597	437	117	23	20	0
姫路赤十字病院	494	213	113	139	15	14
兵庫医科大学病院	576	276	122	39	124	15
関西労災病院	477	188	248	36	5	0
県立淡路医療センター	412	1	104	82	205	20
市立伊丹病院	255	59	66	84	46	0
宝塚市立病院	220	0	89	127	4	0
他 37施設 (国 7、県 8、準 22)	1538	478	470	372	199	19

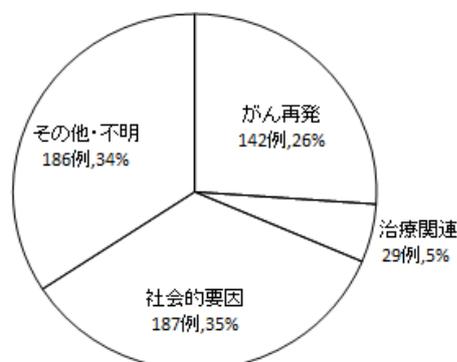
➤ 2-2. パス稼働について (子宮体がん, 前立腺がん)

- ・子宮体がん; 4
- ・前立腺がん; 694

がん診療連携パスの進捗状況

➤ 3. パス脱落例について

計 7,422	乳がん 2,543	胃がん 1,835	大腸がん 1,328	肺がん 921	肝がん 97	子宮体がん 4	前立腺がん 694
544例, 7.3%	50例, 2.0%	157例, 8.6%	101例, 7.6%	153例, 16.6%	25例, 25.8%	0	58例, 8.4%



➤ 4. バリアンスについて

計 7,422	乳がん 2,543	胃がん 1,835	大腸がん 1,328	肺がん 921	肝がん 97	子宮体がん 4	前立腺がん 694
19例, 0.3%	0	8例, 0.4%	3例, 0.2%	5例, 0.5%	3例, 3.1%	0	0

H310314 地域連携パス5年目アンケート

現状

- ①原則的に、患者さんに説明し、かかりつけ医の先生に帰し終了としている。
- ②原則的に、かかりつけ医に必ず情報提供して終了している。
- ③終了せず、ひきつづきかかりつけ医と連携し診療を継続している。
- ④終了せず、引き続き拠点病院で診療を継続している。
- ⑤その他(具体的にお書きください。)

	医療機関名	がん別														今後の対応		
		胃がん	現状	胃がんESD	現状	大腸がん	現状	肝がん	現状	肺がん	現状	乳がん	現状	子宮がん	現状		前立腺がん	現状
1	近畿中央病院	○	①			○	①			○	①	○	①			○	①	
2	関西労災病院	○	②								○	②						
3	神戸大学医学部附属病院					○	③				○	⑤						【現状の詳細】 乳がん:術後10年まで1年毎に通院です。
4	神戸市立医療センター 中央市民病院	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①	
5	姫路赤十字病院	○	③	○	③	○	③	○	③	○	③	○	③					
6	姫路医療センター									○	⑤	○	⑤					【現状の詳細】 肺がん:化学療法開始、当院でフォロー、再発、本人希望でパス 終了、新規肺がん 乳がん:当院でフォロー(半年毎)
7	赤穂市民病院	○	③	○	③	○	③	○	③									
8	県立淡路医療センター	○	①②			○	①②	○	①②	○	①②	○	①②			○	①②	
9	公立豊岡病院	○	①			○	②											【今後の対応】 検討中
10	兵庫医科大学病院	○	①	○	⑤	○	⑤	○	⑤	○	⑤	○	①	○	⑤	○	⑤	【現状の詳細】 連携パス終了時の対応は不明である。(胃がんESD,腸がん,肝がん,肺がん,子宮がん,前立腺がん)
11	西脇市立西脇病院	○	①②⑤			○	①②③	○	⑤									【現状の詳細】 胃がん:①2/6件 ②2/6件 ⑤1/6件:3年後に敗血症性ショックで死亡 1/6件:終了しているが、かかりつけ医へのフォロー はなく拠点病院でのフォローを希望されたが 1年以上受診されていない。 大腸がん:①2/4件 ②1/4件 ③1/4件 肝がん:1件:4年後に肝細胞癌破裂にて拠点病院で死亡された
12	県立柏原病院	○	①	○	①	○	①											
13	神戸市立西神戸医療センター														○	⑤		

H310314 地域連携パス5年目アンケート

現状

- ①原則的に、患者さんに説明し、かかりつけ医の先生に帰し終了としている。
- ②原則的に、かかりつけ医に必ず情報提供して終了している。
- ③終了せず、ひきつづきかかりつけ医と連携し診療を継続している。
- ④終了せず、引き続き拠点病院で診療を継続している。
- ⑤その他(具体的にお書きください。)

	医療機関名	がん別														今後の対応		
		胃がん	現状	胃がんESD	現状	大腸がん	現状	肝がん	現状	肺がん	現状	乳がん	現状	子宮がん	現状		前立腺がん	現状
22	加古川中央市民病院	○	③			○	③											
23	製鉄記念広畑病院					○	①⑤				○	③⑤						【現状の詳細】 大腸がん:5年を経過していませんので、対応症例なし 乳がん:乳がん術後では長期に経過観察するため、5年終了後も引き続きパスを用いて経過観察しています。このため、術後経過観察を行う患者数が多くなるため、他癌に比べても地域連携パスを充実させることがより有用であると考えられます。
24	神戸赤十字病院	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①					
25	姫路中央病院	○	⑤	○	⑤	○	⑤	○	⑤		○	⑤						【現状の詳細】 がんパスは5年をめでに終了とし、引き続きかかりつけ医と連携し、診療を継続している。(中にはそのまま継続してパスを行っている患者もいる。) 具体的には、5年をめでに主治医から患者様にごがんパス期間終了の話を行っている。 患者様に確認後、逸脱届けをかかりつけ医にFAXし、患者様に診療情報提供書をお渡し、かかりつけ医受診の際に渡してもらっている。 1年に1度、当院にて検査フォローを行っている。
26	公立八鹿病院	○	③	○	③	○	③	○	③							○	③	
27	三田市民病院																	【現状の詳細】 がん地域連携パスについて、5大がんすべての施設基準の届出は済んでおりますが、運用には至っておりません。
28	神戸中央病院																	【現状の詳細】 パスは院内調整中です。現状では5年後の診療は①の対応になっております。 今後は運営できるパスから開始予定です。
29	川崎病院																	【今後の対応】 現時点では、運用実績がありません。今後は、開業医からの要望があれば、積極的に対応していく予定です。
30	神戸市立医療センター 西市民病院	○	③	○	③	○	③	○	③	○	③	○	③	○	③	○	③	
31	宝塚市立病院	○	②	○	②	○	②	○	②	○	②	○	②	○	②	○	②	
32	市立川西病院	○	③			○	③				○	③						
33	兵庫中央病院																	【現状の詳細】 がんに関するパスは稼働していないのが実情です。 現状は②、③、④が該当します。
34	明石医療センター										○	②③						

H310314 地域連携パス5年目アンケート

現状

- ①原則的に、患者さんに説明し、かかりつけ医の先生に帰し終了としている。
- ②原則的に、かかりつけ医に必ず情報提供して終了している。
- ③終了せず、ひきつづきかかりつけ医と連携し診療を継続している。
- ④終了せず、引き続き拠点病院で診療を継続している。
- ⑤その他(具体的にお書きください。)

	医療機関名	がん別														今後の対応		
		胃がん	現状	胃がんESD	現状	大腸がん	現状	肝がん	現状	肺がん	現状	乳がん	現状	子宮がん	現状		前立腺がん	現状
35	明石市立市民病院																	【現状の詳細】 がんパスの運用が進んでおらず、該当項目がありません。 現在、院内バスの見直しを行っており、更新、新規作成をおこなっているのですが、がん地域連携パスの運用には至っていないのが現状です。
36	明和病院																	※ 回答辞退の談話あり
37	神戸海星病院																	【現状の詳細】 胃がんと大腸がんについて、現状運用できていない状態です
38	姫路聖マリア病院					○	①②											【今後の対応】 なるべく多くバスの運用をさせたい
39	高砂市民病院																	※ 5/22現在提出なし
40	済生会兵庫県病院	○	②④			○	②④			○	②④	○	②④					【現状の詳細】 情報提供は必ずしているが、引き続き診察している状況 【今後の対応】 当院のような規模の病院では、連携パスはなかなか進まない状況と思われる。
41	神戸労災病院	○	①															
42	新須磨病院	○	③④	○	③④	○	③④	○	③④	○	③④	○	③④	○	③④	○	③④	【現状の詳細】 ⑤ケースごとに違うが、ほとんどが③か④である。
43	北播磨総合医療センター	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①	○	①					【現状の詳細】 対応としては、①を原則としております。 ただ現状として、患者さんからの希望は引き続き当院での経過観察を希望されるケースがあります。
44	市立芦屋病院					○	③											【今後の対応】 今後も継続し、バス適応者がいればバスを運用させていく
45	市立加西病院	○	④							○	④	○	④	○	④			【現状の詳細】 胃がん1件、肺がん1、乳がん2件、子宮がん1件 拠点病院と連携して診療を行っております。
46	甲南病院																	【現状の詳細】 胃がん、大腸がん、肝がん、乳がんについて、対象患者が現状いない状況です。
47	神戸低侵襲がん医療センター																	【現状の詳細】 現在、神戸大学病院と胃、大腸、肝、肺のパスについて診療連携していますが、これまで実績がありません。 実績があれば、当院の診療機能上、いずれのパスも②or③or④になると思います。
48	県立粒子線医療センター																	※ 提出なし(3/15)
合計		28		15		29		16		18		26		7		13		